

令和7年度 強度行動障害支援者養成<実践>研修 1日目テキスト

研修資料

	ページ
① 【オリエンテーション】研修の狙い	1～12
② 【講義】強度行動障害がある者へのチーム支援① —支援を組み立てるための基本	13～98
③ 【演習】障害特性のアセスメント① —具体的なアセスメントの方法	99～135
④ 【演習】障害特性のアセスメント② —障害特性に基づくアセスメント	136～190
⑤ 【講義】強度行動障害がある者へのチーム支援②	191～246

ページ

① 【オリエンテーション】研修の狙い

1~12

オリエンテーション 研修の狙い

和歌山県障害福祉課

※本資料は、令和7年度強度行動障害支援者養成研修（実践研修（指導者研修））の資料を基に作成しています。

「強度行動障害」に関する対象者の概要

「強度行動障害」とは

自分の体を叩いたり食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど本人の健康を損ねる行動、他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のこと。

「支援の対象者」については

障害福祉サービスを受ける際に行う障害支援区分の調査に併せて把握する「行動関連項目」（障害児の場合は「強度行動障害判定基準表」）の合計点数が10点以上（障害児は20点以上）の場合に対して手厚い支援（下記の図参照）が提供される。

令和4年度に開催された「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」において、支援人材のさらなる専門性の向上、日常的な支援体制の整備と支援や受入の拡充方策、状態が悪化した者に対する「集中的支援」の在り方等について提案された。

検討会報告も踏まえ、令和6年度報酬改定では、受入拡大や支援の充実の観点から、新たに行動関連項目18点以上（障害児は30点以上）の場合のより高い段階の加算や、状態が悪化した者に対するアセスメントや環境調整を行う「集中的支援」に係る加算を創設する等の対応を行った。

行動障害関連の障害福祉サービス・障害児支援の利用者

（国民健康保険団体連合会データ）

のべ122,525人（令和6年10月時点）

（行動援護、共同生活援助、短期入所、生活介護等を重複して利用する場合があるため、のべ人数としている）



重度訪問介護※1
1,413人



行動援護
16,224人



共同生活援助

重度障害者支援加算Ⅰ※2 8,171人（介護型6,913+日中S型1,258）
（内、18点以上※3 49人（介護型49+日中S型0））
重度障害者支援加算Ⅱ 7,154人（介護型6,167+日中S型987）
（内、18点以上※3 14人（介護型14+日中S型0））

短期入所 重度障害者支援加算Ⅰ※2 7,603人（内、18点以上※3 18人）
重度障害者支援加算Ⅱ 4,115人（内、18点以上※3 3人）
施設入所支援 重度障害者支援加算Ⅱ 26,301人（内、18点以上※3 205人）
重度障害者支援加算Ⅲ 8,479人（内、18点以上※3 19人）



生活介護

重度障害者支援加算Ⅱ 21,173人
（内、18点以上※3 71人）
重度障害者支援加算Ⅲ 16,405人
（内、18点以上※3 38人）

障害児入所施設

重度障害児支援加算※4 福祉型 148人：医療型 0人
強度行動障害児特別支援加算 福祉型 加算Ⅰ：13人・加算Ⅱ：3人
医療型 加算Ⅰ：0人・加算Ⅱ：0人

児童発達支援 強度行動障害児支援加算 494人
放課後等デイサービス 強度行動障害児支援加算 加算Ⅰ：4,647人・加算Ⅱ：89人
保育所等訪問支援 強度行動障害児支援加算 93人
居宅訪問型児童発達支援 強度行動障害児支援加算 0人

（※1）利用者の内、知的障害者の数（平成26年度からは、重度訪問介護についても、行動援護等の基準と同様の対象者に対して支援を提供することが可能となっている）。
（※2）短期入所の重度障害者支援加算Ⅰ及び共同生活援助の重度障害者支援加算Ⅰには、区分6かつ、Ⅰ類型(人工呼吸器)、Ⅱ類型(最重度知的障害)、Ⅲ類型(行動障害)が含まれるが、その内訳は不明。
（※3）中核的人材を配置し行動関連項目18点以上の者を支援した場合に算定。
（※4）障害児入所施設の重度障害者支援加算は主として知的障害児・自閉症児を入所させる場合であって、強度行動障害支援者養成研修終了者を評価する加算を算定している人数。

強度行動障害の施策の経過

昭和55年

令和3年

施設入所支援

昭和55年 第1種・第2種自閉症児施設

利用者	H23.4 2432人	H24.4 8667人	R1.12 19,670人	R2.12 21,054人
施設数	308施設	638施設	892施設	939施設

- 平成5年 強度行動障害者特別処遇事業
- 平成10年 強度行動障害特別加算費
- 平成18年10月 重度障害者支援加算(Ⅱ)(15点以上)
- 平成26年4月 重度障害者支援加算(Ⅱ)(8点以上→支援区分10点以上)
- 平成27年4月 重度障害者支援加算(Ⅱ)(研修義務付 体制加算+個人加算)

平成25年 平成26年 平成27年 平成30年 令和3年

- 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
- 強度行動障害支援者養成研修(実践研修)
- 重度障害者支援加算見直し(研修義務づけ)
- 重度障害者支援加算見直し・新加算創設
- 重度障害者支援加算見直し・新加算創設

在宅・地域サービス

利用者	H19.11 3204人	H20.4 3296人	H22.1 4528人	R1.12 11,824人	R2.12 11,159人
事業所数		739事業所	901事業所	1,787事業所	1,811事業所

- 平成5年 知的障害者ガイドヘルパー制度
- 平成15年 移動介護
- 平成18年 市町村地域生活支援事業・移動支援事業

- 平成17年 行動援護開始(対象者基準 てんかん+他9項目において10点以上)
- 平成18年10月 行動援護(区分3以上 てんかん他11項目において10点以上)
- 平成20年4月 行動援護(区分3以上 てんかん+他11項目において8点以上)
- 平成26年4月 行動援護(支援区分3以上 てんかん+他11項目において10点以上)
- 平成26年4月 重度訪問介護 対象拡大(区分4以上 てんかん+他11項目において10点以上)
- 平成30年4月 重度訪問介護 訪問先の拡大(入院中のコミュニケーション支援)

短期入所	H23.4 780人	H24.4 1164人	R1.12 5,407人	R2.12 4,584人
共同生活援助	113人	399人	3,316人	3,818人

- 平成18年10月 短期入所・共同生活援助 重度障害者支援加算
- 平成27年4月 短期入所・共同生活援助 重度障害者支援加算(研修義務付・拡充)
- 平成30年4月 日中サービス支援型グループホームの創設

- 令和3年4月(主なもの) 重度障害者支援加算(Ⅱ) アセスメント期間の見直し 90日間+700単位 → 180日間+500単位
- グループホーム 区分6以上 → 区分4以上
- 生活介護 施設入所支援の外部通所者に算定可
- 障害児支援 個別サポート加算(Ⅰ)(Ⅱ)新設 等

専門的
拠点

平成14年
自閉症・発達障害
支援センター創設

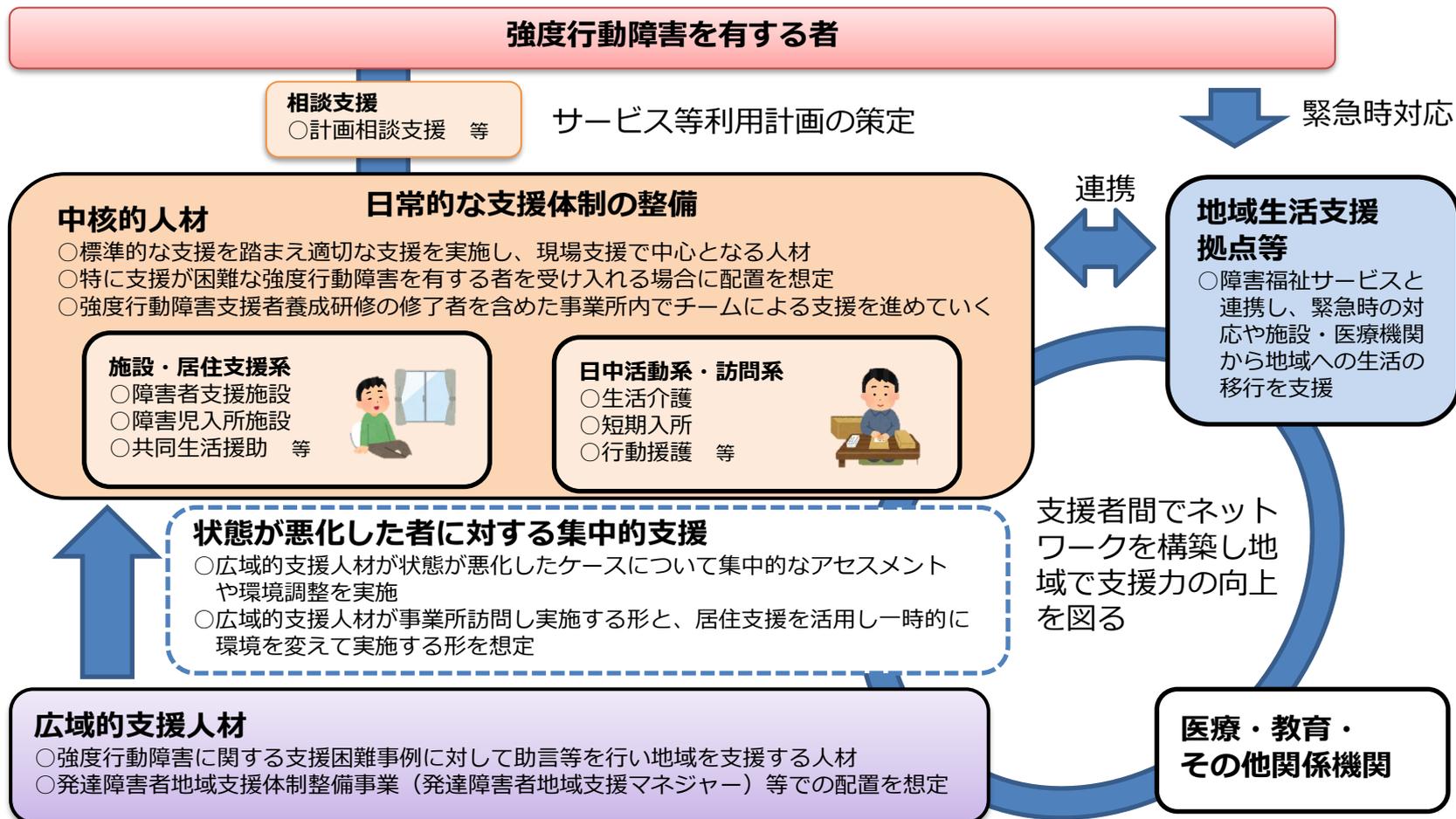


平成17年
発達障害者支援センター

平成26年 発達障害者地域支援マネジャー

強度行動障害を有する者の地域の支援体制イメージ

- 強度行動障害を有する者の支援においては、特定の事業所、特定の支援者だけで支えるには限界があり、地域の中で複数の事業所、関係機関が連携して支援を行う体制を構築していくことが必要である。
- 事業所においては適切な支援の実施をマネジメントする中核的人材を中心にチームによる支援を進めていくことが必要である。また、各地域において、広域的支援人材等が事業所への指導助言等を行い、事業所の支援力の向上や集中的支援による困難事案への対応を行う体制を整備していくことが必要である。



強度行動障害を有する障害者等への支援体制の充実

①強度行動障害を有する者の受入体制の強化

【重度障害者支援加算（生活介護・施設入所支援）】

- 区分6以上行動関連項目10点以上の報酬区分を新設する。
- 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）修了者の加配要件を廃止し、生活支援員に占める割合での評価とする（体制加算部分は廃止）。（現行）基準及び人員配置体制加算の配置数に加えて配置される基礎研修修了者1人（4時間程度以上）につき、利用者5人まで算定可（見直し後）生活支援員のうち基礎研修修了者の割合が20%以上

【重度障害者支援加算（短期入所）】

- 区分4,5の報酬区分を新設する。
- 標準的な支援を推進するため、強度行動障害支援者養成研修（実践研修）修了者が作成した支援計画シート等により適切な支援を行った場合の評価を新設する（基礎研修修了者の配置のみの加算部分は廃止）。

【重度障害者支援加算（共同生活援助）】

- 共同生活援助での受入体制を強化するため、利用者の状態や環境の変化等に適応するための初期のアセスメント等の評価を新設する。

【重度障害者支援加算（共通）】

- 生活介護・施設入所支援・短期入所・共同生活援助において、行動関連項目の合計点が18点以上の者を受入れて中核的人材が作成する支援計画シート等により適切な支援を行った場合にさらに加算する。

②状態が悪化した強度行動障害を有する児者への集中的支援

- 高度な専門性により地域を支援する人材（広域的支援人材）が、事業所等を集中的に訪問等（情報通信機器を用いた地域外からの指導助言も含む）し、適切なアセスメントと有効な支援方法の整理を共に行い環境調整を進め、支援を行った場合の評価を新設する。※期間は3か月を限度

【新設】集中的支援加算

- ・ 広域的支援人材が訪問等した場合の評価 1,000単位/回（月に4回を限度）
- ・ 状態が悪化した者を受け入れた施設等への評価 500単位/日



	区分4以上かつ10点以上 ※実践研修修了者配置		【新設】18点以上の場合 ※中核的人材養成研修修了者配置		区分6以上かつ10点以上 ※実践研修修了者配置		【新設】18点以上の場合 ※中核的人材養成研修修了者配置	
	受入・体制 180単位	初期 400単位	個別支援 +150単位	初期 +200単位	【新設】受入・体制 360単位	【新設】初期 500単位	個別支援 +150単位	初期 +200単位
生活介護・施設入所支援								
短期入所	【新設】受入 30単位	【新設】体制 +70単位	個別支援 +50単位		受入 50単位	【新設】体制 +100単位	個別支援 +50単位	
共同生活援助	受入・体制 180単位	【新設】初期 400単位	個別支援 +150単位	初期 +200単位	受入・体制 360単位	【新設】初期 500単位	個別支援 +150単位	初期 +200単位

③行動援護における短時間の支援の評価等

- ニーズの高い短時間の支援を評価する（長時間の支援は見直し）。

【行動援護の基本報酬】（例）

- ・ 所要時間30分以上1時間未満の場合（現行）407単位 →（見直し後）437単位
- ・ 所要時間5時間30分以上6時間未満の場合（現行）1,940単位 →（見直し後）1,904単位

- 特定事業所加算に以下の要件を追加する。

- ・ 医療・教育等の関係機関との連携
- ・ 行動関連項目18点以上の者の受入れ
- ・ 中核的人材養成研修を修了したサービス提供責任者の配置

④重度障害者等包括支援における専門性の評価等

- 訪問系サービスにおいて有資格者による支援を評価する。

【新設】有資格者支援加算 60単位/日（1人1日当たり）

- 複数のサービス事業者による連携した支援を評価する。

【新設】外部連携支援加算 200単位/回（月4回を限度）

児童発達支援・放課後等デイサービス

- 放課後等デイサービスの個別サポート加算（Ⅰ）について、強度行動障害の知識のある職員による支援を行った場合の評価を充実するとともに、著しく重度の障害児が利用した場合の評価を見直す

《個別サポート加算（Ⅰ）》**【現行】** 100単位/日
 ※著しく重度（食事・排せつ・入浴・移動のうち3以上が全介助）又はケアニーズの高い（就学時ケアニーズ調査表で13点以上）児に対して支援（主として重症児除く）

➡ **【改定後】** ケアニーズの高い障害児に支援 90単位/日
 同 基礎研修修了者を配置し支援 **120単位/日**
 著しく重度の障害児に支援 **120単位/日**
 （主として重症児除く）

- 強度行動障害児支援加算について、支援スキルのある職員の配置や支援計画の策定等を求めた上で、評価を充実する。放課後等デイサービスにおいて、専門人材の支援の下、行動障害の状態がより強い児に対して支援を行った場合の評価を見直す

《強度行動障害児支援加算》**【現行】** 155単位/日
 ※基礎研修修了者を配置し、強度行動障害を有する児（児基準20点以上）に対して支援

➡ **【改定後】** (Ⅰ) (児基準20点以上) **200単位/日**
 (Ⅱ) (児基準30点以上) **250単位/日** (※放デイのみ)
 加算開始から90日間は+500単位/日
 ※実践研修修了者(Ⅱは中核的人材)を配置し、支援計画を作成し支援

※このほか、強度行動障害を有する児について、集中的支援加算（Ⅰ）広域的支援人材による支援：1000単位/日（月4回まで）も創設

保育所等訪問支援

- 強度行動障害を有する児へ支援を行った場合に評価

新設 《強度行動障害児支援加算》200単位/日
 ※実践研修修了者を配置し、強度行動障害を有する児（児基準20点以上）に対して、支援計画を作成し、基礎研修又は実践研修修了者が支援

障害児相談支援

- 強度行動障害を有する児へ相談支援を行った場合に評価

《行動障害支援体制加算》**【現行】** 35単位/月
 実践研修を終了している相談支援専門員を配置し公表

➡ **【改定後】** (Ⅰ) 6.0単位/月
 強度行動障害を有する児（児基準20点以上）に対して指定障害児相談支援を実施
 (Ⅱ) 3.0単位/月
 現行通り

障害児入所施設

- 強度行動障害児特別支援加算について、体制・設備の要件を整理し評価を見直すとともに、行動障害の状態がより強い児への支援について、専門人材の配置等を求めた上で評価を見直す

《強度行動障害児特別支援加算》**【現行】** 781単位/日
 加算開始から90日間は+700単位/日

➡ **【改定後】** (Ⅰ) (児基準20点以上) **390単位/日**
 (Ⅱ) (児基準30点以上) **781単位/日** ※90日間+700単位は変更なし
 ※加配・設備要件を緩和。Ⅱについて中核的人材を配置

※このほか、強度行動障害を有する児について、集中的支援加算（Ⅰ）広域的支援人材による支援：1000単位/日（月4回まで）
 (Ⅱ) 他施設等からの受入れ：500単位/日（いずれも3月以内）も創設

強度行動障害支援者養成研修について

- 強度行動障害を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどを特徴としているため、現状では事業所の受入れが困難であったり、受入れ後の不適切な支援により、利用者に対する虐待につながる可能性も懸念されている。
- 一方で、施設等において適切な支援を行うことにより、他害行為などの危険を伴う行動の回数が減少するなどの支援の有効性も報告されていることから、地域生活支援事業において、強度行動障害を有する者に対して適切な支援を行う職員の人材育成を目的とする体系的な研修を実施しているところ。

国立のぞみの園

(指導者養成研修)

- 基礎研修・実践研修の指導者を養成するための研修を実施

都道府県

- 障害福祉サービス等事業所の職員に対して、以下のとおり基礎研修・実践研修を実施

障害福祉サービス等事業所

サービス管理責任者クラスの職員

平成26年度～ 強度行動障害支援者養成研修
(実践研修) 講義＋演習(12時間)

支援現場の職員

平成25年度～ 強度行動障害支援者養成研修
(基礎研修) 講義＋演習(12時間)

(参考) 強度行動障害を有する者への標準的な支援

(強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(令和5年3月30日)より)

○(中略)強度行動障害を有する者への支援にあたっては、知的障害や自閉スペクトラム症の特性など個人因子と、どのような環境のもとで強度行動障害が引き起こされているのか環境因子もあわせて分析していくことが重要となる。こうした個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を調整していくことが強度行動障害を有する者への支援において標準的な支援である。

課題となっている行動の例

- ・先の見通しが持てず何度も予定を確認する
- ・音に敏感で騒がしい部屋に入れない
- ・「拒否」が伝えられず他者を叩いてしまう など

本人の特性

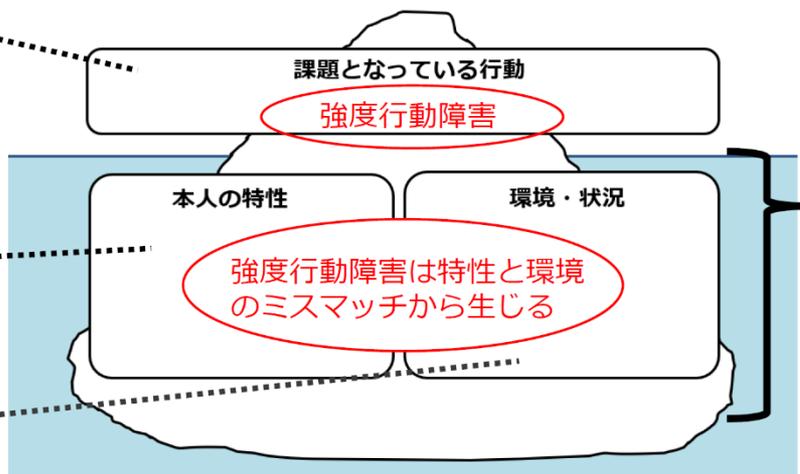
自閉スペクトラム症や知的障害など個々の障害特性

環境・状況

困り感やストレスの要因となっている環境や状況

冰山モデル

見えている行動だけに着目せず行動の背景を考えることが重要
* 強度行動障害支援者養成研修より



標準的な支援

障害特性を踏まえた*機能的アセスメントを行い、強度行動障害を引き起こしている環境を調整する

*機能的アセスメント
課題となっている行動がどのような意味(機能)をもっているか調べる

アセスメントに基づく支援計画を立て、実施し、実施内容を評価して次の支援につなげる

予防的支援の重要性

(強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書より)

- **予防的観点**を込めて標準的な支援を行うことが必要
- 強度行動障害を引き起こさなくても良い支援を**日常的におこなう**ことが重要
- 支援者、家族、教育等の関係者が、標準的な支援の**知識を共有し、地域の中に拡げていく**ことが重要

強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)(実践研修)の位置づけ

強度行動障害支援者養成研修(実践研修)

①アセスメント

行動観察・情報収集
障害特性の理解

行動の
分析
理解

・本人が困っていること
・本人ができる事、強み
・本人の特性
の把握

②支援の計画 (支援の手順書)

- A. 本人の困難を軽減したり取り除く
 - B. 本人ができること、強みを活用する
- ※ 支援計画は場面ごと、工程ごとに丁寧に作る必要がある。

A, Bを組み合わせた具体的なツールの作成や構造化、環境調整などの支援計画の立案
支援の方向性は基本的に忠実に
具体策やツールは個別化する

支援の結果等のフィードバック

③支援

・障害特性の理解 ・支援の手順書に基づく支援 ・日々の記録等

強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)

基礎研修が目指すもの

- ① 「支援の手順書」に書かれている内容とその根拠を理解する
- ② 詳細な手続きまで手順通りにルールを守る
- ③ 支援内容の概要や利用者の行動を記録し報告する

実践研修が目指すもの

- ① サービス管理責任者が作成した個別支援計画を読み込み、「支援手順書」を作成する
- ② 「支援手順書」のサービス提供方法について正確に伝達し、日々の支援結果の記録方法についても的確に指示する
- ③ 一定期間の手順で実施した支援の結果を取りまとめ、サービス管理責任者と相談し、支援方法の変更や継続について議論する

和歌山県強度行動障害支援施設職員養成研修（連続研修）について

<目的>

行動障害を有する方を支援する施設等を対象に、講義、事例による実践研修を行うことを通じて、施設内での行動障害を有する方への虐待及び不適切な支援の防止並びに行動障害の軽減を図る方法の検討等を行い、もって、行動障害を有する方を支援する職員を養成することを目的とする

<受講対象>

- 和歌山県内で行動障害を有する方を支援する施設等で、2名程度
- 受講者のうち、少なくとも1名は強度行動障害支援者養成研修の基礎研修及び実践研修を受講済であることもう1名についても基礎研修は受講済であること

<研修内容> *より実践向きの研修

- 行動障害を有する方を自施設で支援する中で、実際に困っている事例について、検討を行う
- 研修の中で、実際に支援計画を立て、現場に持ち帰って実践。その成果を記録に取り、次の研修会でさらに検討を重ねる
- 支援計画の立案や行動記録に役立つ考え方やツールを紹介（ABC分析、ストラテジーシート、「行動・状況」分析シート、スキャターシートなど）

<研修日程>



<現場での支援の実施>

②	【講義】強度行動障害がある者へのチーム支援① —支援を組み立てるための基本
---	--

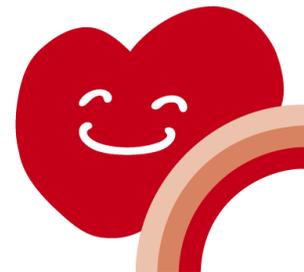
13～98

支援を組み立てるための基本

- ・ 強度行動障害の支援に必要な知識

社会福祉法人和歌山県福祉事業団

由良あかつき園 松本 透



和歌山県福祉事業団

この時間で学ぶこと

- 基礎研修で学んだことを振り返ります。
- 支援を組み立てるための基本的な流れを把握します。

この時間の流れ①

講義

 動画視聴

①強度行動障害の理解

- ・ 支援の基本的考え方
- ・ 強度行動障害の状態
- ・ 行動障害が起きる理由

②強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

③支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

この時間の流れ②



講義

④基本的な情報収集

- ・行動を見る視点

⑤特性の分析

- ・特性の把握と適切な対応

⑥チームプレイの基本

- ・チームプレイの必要性

⑦支援を組み立てるための基本

①強度行動障害の理解

- ・ 支援の基本的考え方

支援とは

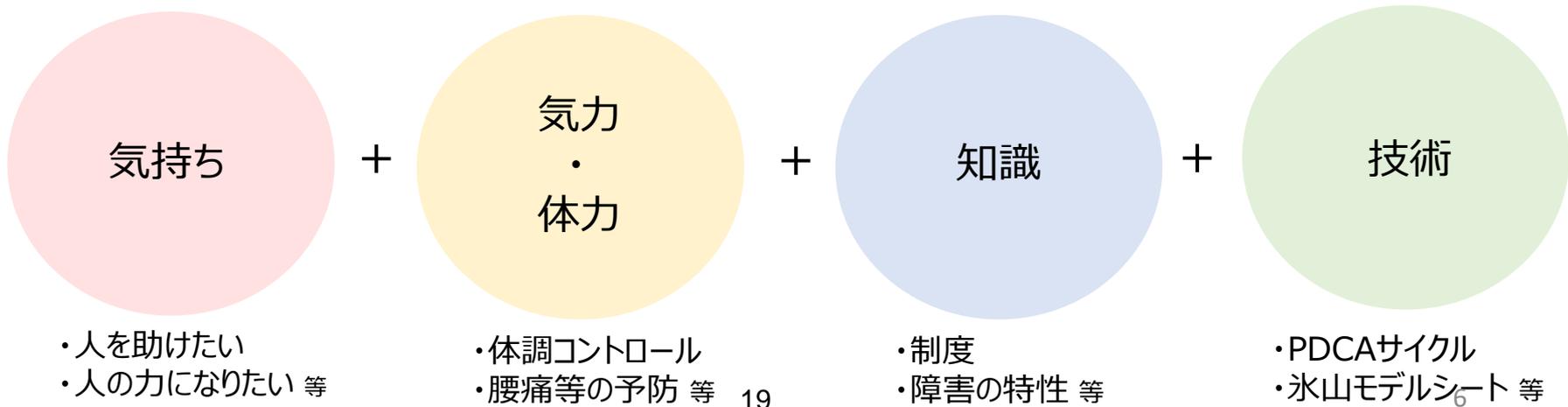
他人を支えたすけること

労力や金銭などの面で、その活動や事業を助ける意を表す



出典：三省堂大辞林第三版

支援の専門家が、支援を提供する際に必要なもの



基礎的な支援の流れ



よりよい支援の流れをつくるためのポイント



2 情報整理時、**ICF**を活用する



2 情報分析時、**冰山モデルシート**を活用する



チームで支援の手順を統一するために、**支援手順書を作成・共有**する



11項目におよぶ支援の流れは、大きく下記の4つに分けることができる。

- 1～6 = 計画 (Plan)
- 7・8 = 実践 (Do)
- 9・10 = 評価 (Check)
- 11 = 改善 (Action)

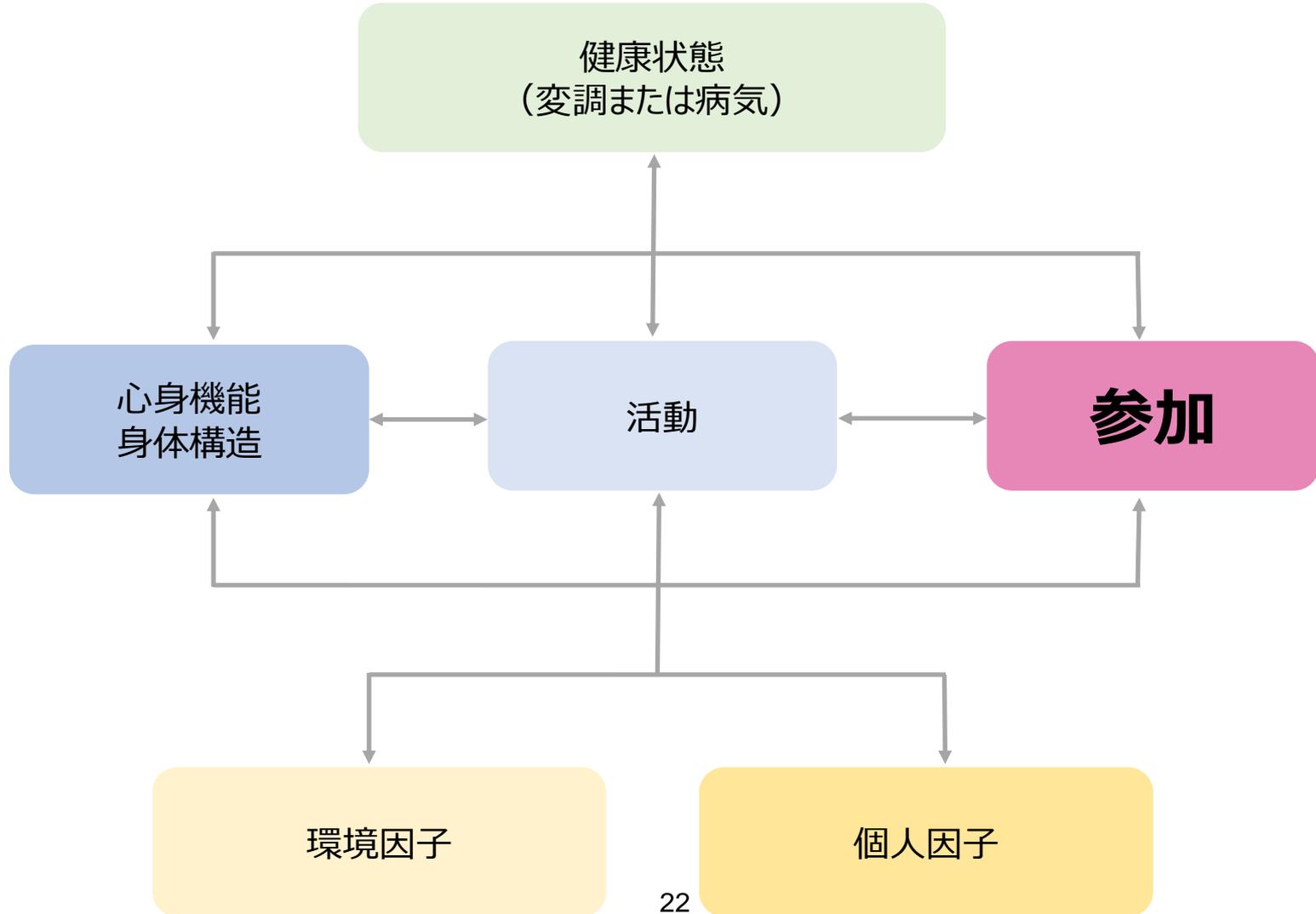
⇒これを「**PDCAサイクル**」といいます

業務を継続的に改善していく手法。品質管理の国際基準であるISO9001や、ISO14001などにも考え方が採用されている。

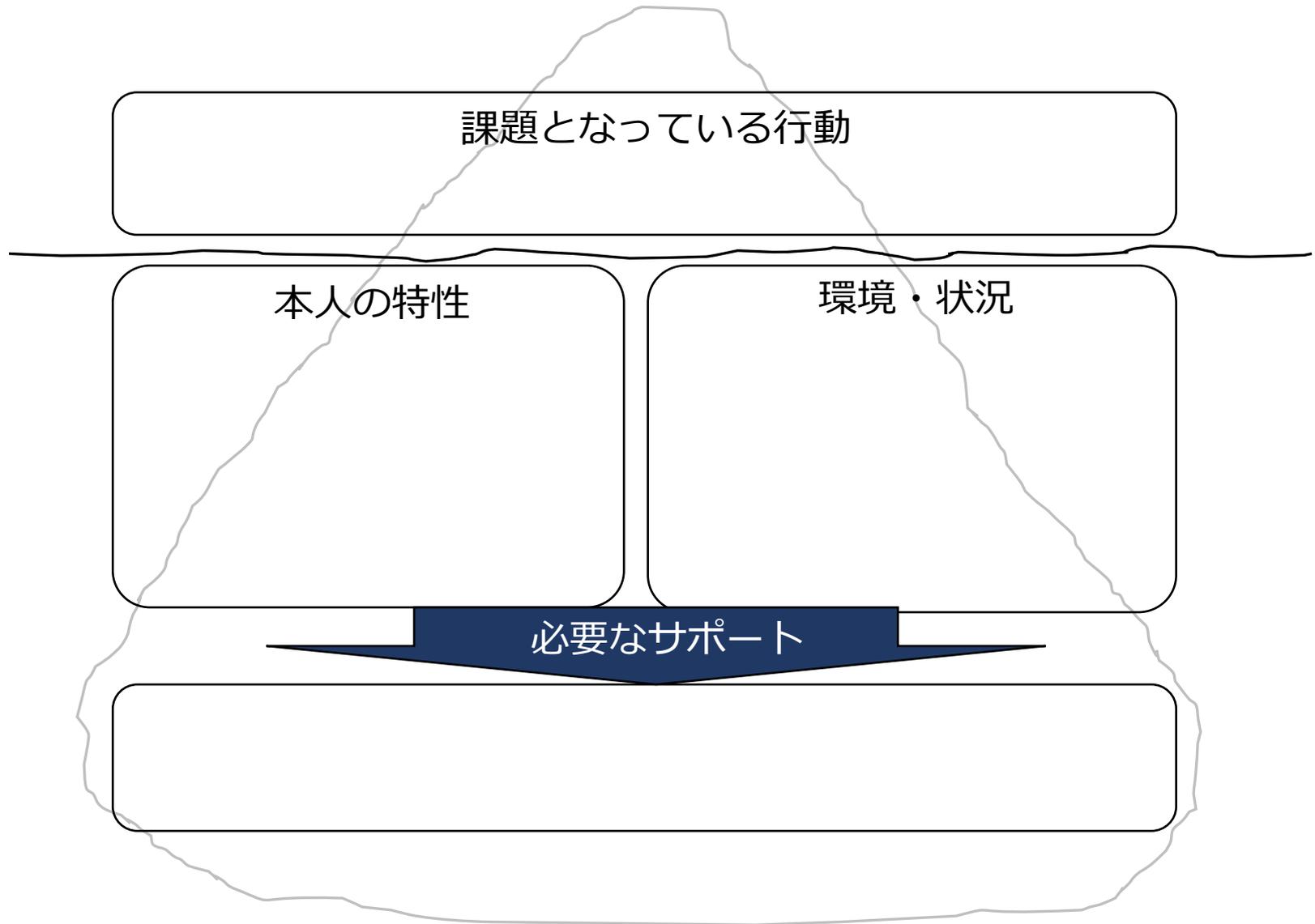
よりよい人生²⁴へと向かう

ICF（国際生活機能分類）とは

- ▶ International Classification of Functioning, Disability and Health 2001年5月 WHO総会で採択
- ▶ ■人間全体を見る ■個別性をとらえる ■サービスの効果を全体的にとらえる ものとして使われている



これが「冰山モデルシート」です



これが「支援手順書（例）」です

支援手順書/記録用紙

日付け	20〇〇年〇月×日	氏名	Tさん	記入者	支援員B
工程	本人の動き	支援者の動き・留意点		本人の様子(記録)	
事前準備		スケジュールに活動カードをセット。 お茶をカバンに入れる。			
スケジュール確認	出発前に支援者と一緒にスケジュール確認	Tさんに見えるようにスケジュールを示し、活動カードを1つ1つ指差しして予定を最後まで確認する。 最後まで確認できたらカバンを渡して出発するように促す。			
散歩	公園に向かって歩く	Tさんの横を歩き、通行人や車をぶつからない様に注意する。 ぶつかりそうな時はTさんの前に出てジェスチャーで止まる様に促す。 公園に近づくと走り出すことがあるので、横断歩道の前で本人の前に出て身体の前には手を出すジェスチャーで止まる様に促し、支援者が安全確認する。			
公園	公園の入り口でスケジュール確認 ブランコで遊ぶ お茶を飲む	公園の入り口でスケジュール確認(活動カードを外す)。 ブランコに移動、本人が満足するまで遊んでもらう。 満足して動き出したら、次のスケジュールを示しベンチに移動。 ベンチでスケジュール確認(活動カードを外す)、お茶を飲む。 終わったら次の活動を伝える。 * Tさんが水遊びを始めた時は、タイマーを3分にセットし、Tさんに見える様にセットし、「3分でおしまい」と声かけ。 タイマーがなったらTさんが水道を止めるので、次の活動を促す。			
外食	飲食店に行き食事をする	お店の前で走り出すことがあるので、本人の前に出てジェスチャーで止まってもらい支援者が安全確認。 店前でスケジュール確認(活動カードを外す)。 メニュー表を見せると、食べたいものを指差すので、支援者が注文、購入する。 食事は見守りする。 食べ終わったら次の予定を伝える。			
帰宅	自宅に戻る	スケジュール確認(活動カードを外す)。 家族にTさんの様子を伝える。			

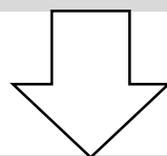
- * スケジュール確認の手順
 - ・スケジュールカードを指差し、次の活動を単語で伝える
 - ・活動場所に着くとカードを外しポケットに入れる
 - ・次の活動を伝える際はスケジュールカードを指差し、単語で伝える
- * 本人と関わる際の留意点
 - ・声かけは最小限にする(声かけが多くなると混乱しやすいため)
 - ・公園やお店の近くでは目的に向かって急に走り出す~~24~~あり
 - ・事前にジェスチャーで止まる様に促し支援者が安全確認する

①強度行動障害の理解

- ・強度行動障害の状態

「強度行動障害」とは

自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態を意味する用語



- × もともとの障害
- その人の状態のこと

①強度行動障害の理解

- ・ 行動障害が起きる理由

障害からくる苦手さを持つ人たちは、困っています。

障害からくる苦手さ

先の予測をすることが難しい

見えないものの理解が難しい

話し言葉の理解が難しい

抽象的であいまいな表現の理解が難しい

話し言葉で伝えることが難しい

やりとりの量が多いと処理が難しい

少しの違いで大きな不安を感じる

聴覚の過敏や鈍麻がある

⋮

28

不安

緊張

不安や緊張から

逃れたい

不安や緊張を

伝えたい

不安や緊張に

気づいてほしい

でも方法がわからない

気持ちを **行動** で表す

15



- そのまま、障害からくる苦手さが解消されないと、さらに、激しい行動をとることがあります。



- また、適切な行動を覚えてもらう機会がなかったり
- 自分の気持ちを伝えるために激しい行動を取った時、周囲がその行動を止めるために本人が望むままの対応を繰り返していると、「激しい行動をすることで自分の気持ちが伝わる」と理解し、激しい行動が定着してしまうこともあります。

このように、

- ☑ 適切な行動を教えられていない
- ☑ 周囲が誤った対応を繰り返す



行動が激しくなっていく

= 「強度行動障害の状態」

②強度行動障害の理解

- ・ 障害特性の理解

強度行動障害と自閉症の関連性が高いと言われて
います。

したがって、強度行動障害への支援を学ぶため
には、まず自閉症のことを知ることが大切です。

自閉症について

- 現在、自閉症のことを正式には「自閉スペクトラム症」もしくは「自閉症スペクトラム障害」と呼びます。いろいろなタイプがいて、境目のない連続体として広がっているという考え方です。
- 自閉症は、社会性やコミュニケーションの困難、想像力（目の前にないことをイメージすること）の困難が診断基準となり、感覚の特異性も診断の際に考慮されます。

自閉症の特性を整理する

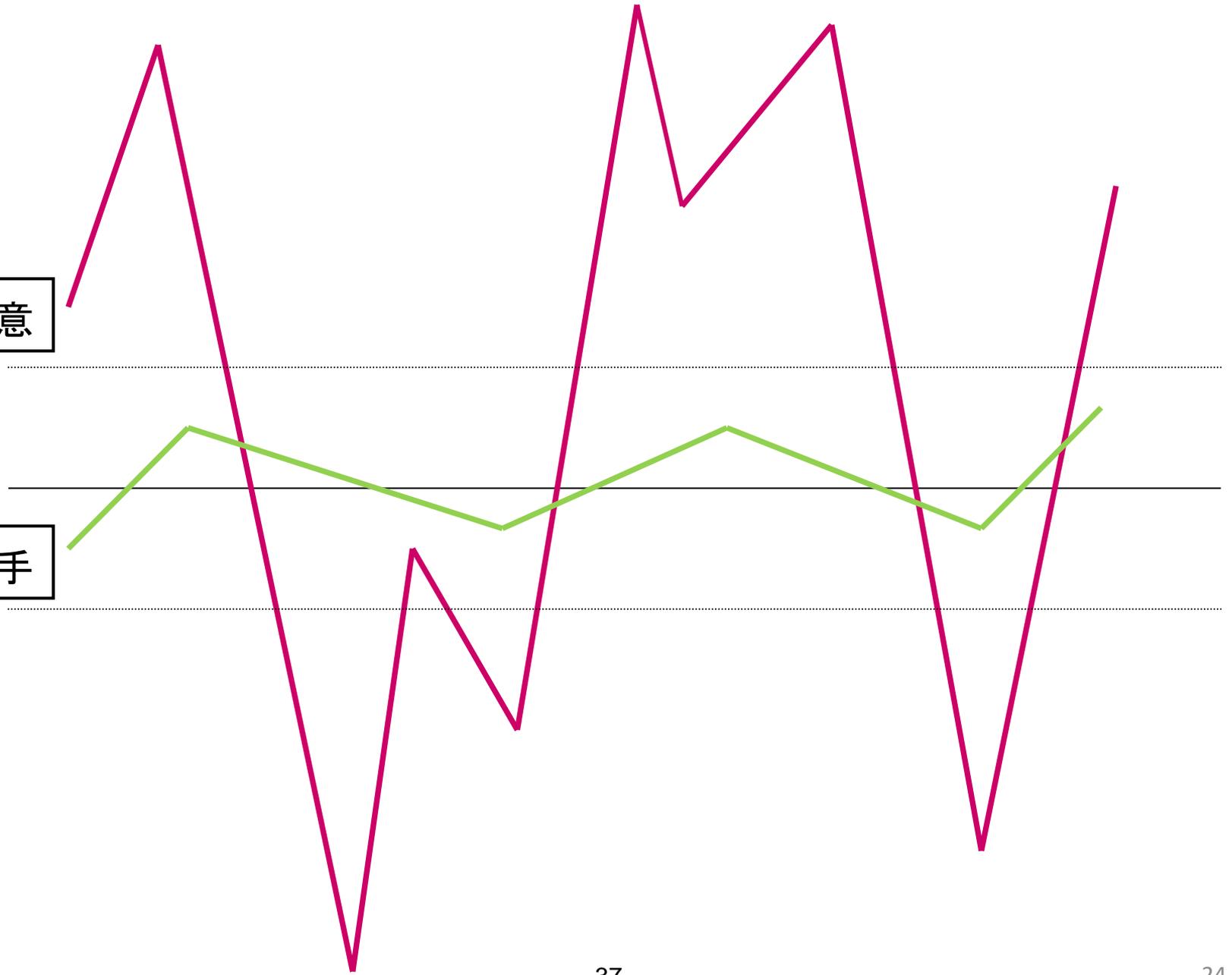
なぜ、自閉症の特性を整理するのか

- 自閉症の人たちは社会では少数派です。その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

- 特性は、「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。「強み」は支援に生かすもので、「弱み」は支援者が配慮するところと言えます。それゆえ、特性の把握においては「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要です。

得意

苦手



- 自閉症の人たちの物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、強度行動障害という状況に陥ることなく、よりよい生活を送ることができます。
- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、支援の基盤に置く必要があるのです。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

視点① 社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

- ・ 相手への関心が薄い
- ・ 相手から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 相手が見ているものを見て、相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

- ・ 周囲で起こっていることへの関心が薄い
- ・ 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい
- ・ 見えないものの理解が難しい

☆自分がすべきことが明確であれば、集団への適応が増す。

視点② コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

- ・話し言葉の理解が難しい
- ・一度にたくさんのかを理解するのが難しい
- ・抽象的であいまいな表現の理解が難しい

【発信が難しい】

- ・話し言葉で伝えることが難しい
- ・どのようにして伝えたらいいか分からない
- ・誰に伝えていいか分からない

視点② コミュニケーションの特性

【やりとりが難しい】

- ・ 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい
- ・ 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい
- ・ やりとりの量が多いと処理が難しい

☆話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

視点③ 想像力の特徴

※想像力：目の前にないことをイメージする力

【自分で予定を立てることが難しい】

- ・ 段取りを適切に組むことが難しい
- ・ なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい
- ・ 今やることを自分で判断することが難しい

【変化への対応が難しい】

- ・ 先の予測をすることが難しい
- ・ 臨機応変に判断することが難しい
- ・ 自分のやり方から抜け出すことが難しい

視点③ 想像力の特徴

【物の一部に対する強い興味】

- ・興味・関心が狭くて強い
- ・細部が気になり違いに敏感
- ・少しの違いで大きな不安を感じる

☆目の前に存在する視覚情報があるとわかりやすさが増す。

☆自分が興味・関心のある対象への思いが強みになることも多い。

視点④ 感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

- ・聴覚の過敏や鈍麻がある
- ・視覚の過敏や鈍麻がある
- ・触覚の過敏や鈍麻がある
- ・嗅覚の過敏や鈍麻がある
- ・味覚の過敏や鈍麻がある
- ・前庭覚の特有の感覚がある

☆感覚に関する反応が、心身の状況や調子のバロメーターとなることも多い。

③ 支援のアイデア

- ・ 障害特性に基づいた支援

目で見えてわかる支援が基本

目で見えてわかる支援をするのはなぜか？

- 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
- 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
- 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

目で見えてわかる支援をするために

- わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある
 - = その人に合わせた支援
 - = 合理的配慮

支援のポイントは
どこにあるか

確実に伝えたい6つの情報

- 「いつ」
- 「どこで」
- 「何を」
- 「どのくらい」
- 「どうやって」
- 「次は」

6つの情報を確実に伝えるための5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫（コミュニケーションツール）

時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが1対1対応できれば理想だが…
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする。

方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために
 - やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。

見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - 必要な情報に注目しやすくする工夫
 - 見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
 - 情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート

支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。

④ 基本的な情報収集

- ・ 行動を見る視点

「行動チェックシート」

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動を見る視点の大切さ

- ここまでの講義で、強度行動障害の状態にある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があることを学びました。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- 客観的に観察することで、行動の背景にはさまざまな苦手さがあることに気がつくことができます。

まとめ

本人の行動は「困っている」サインかもしれません

- 本人の行動をヒントに
- 特性に気づき
- 適切な支援を組み立てていくことで

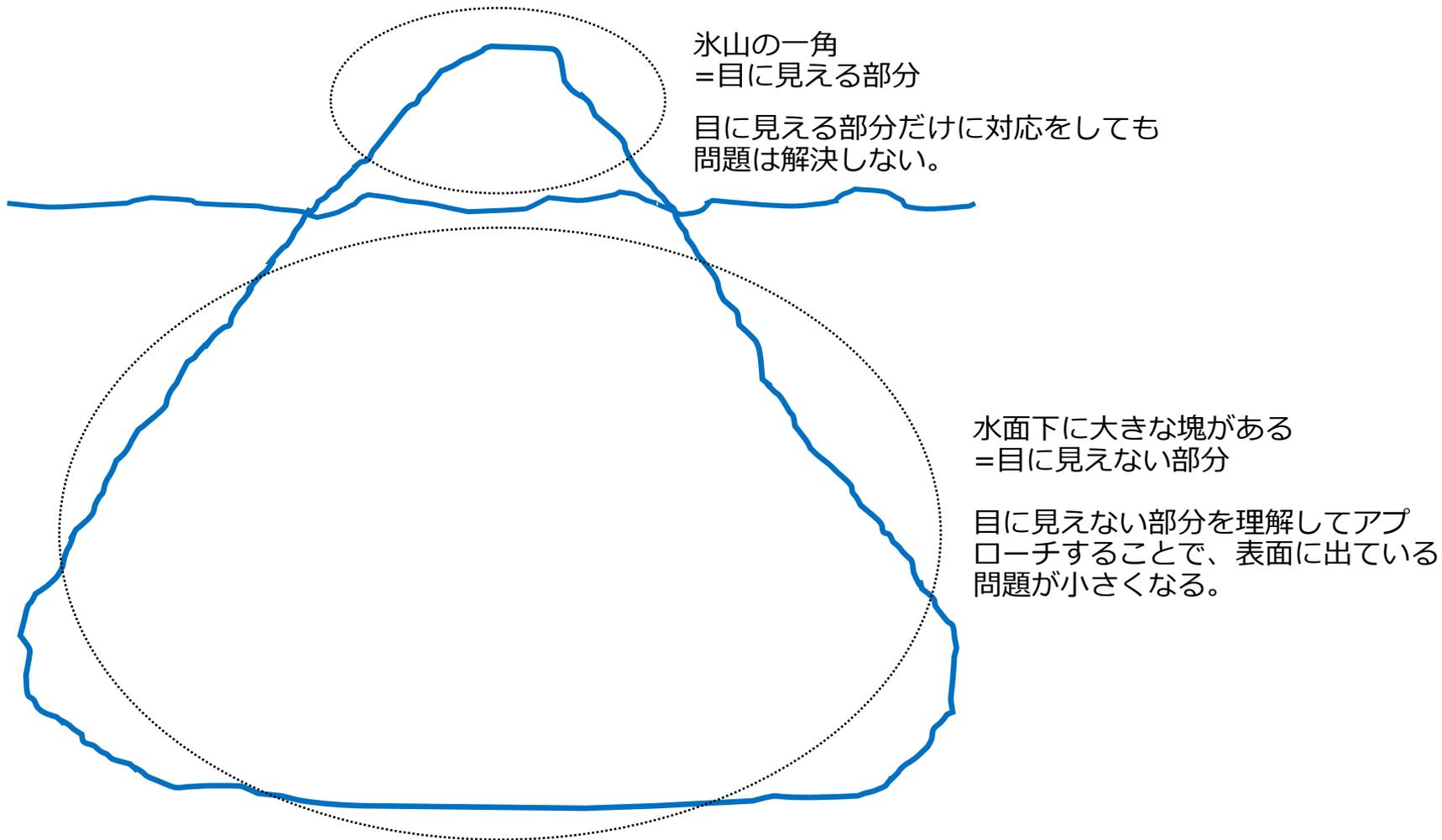


支援も本人の活動も成功しやすくなります

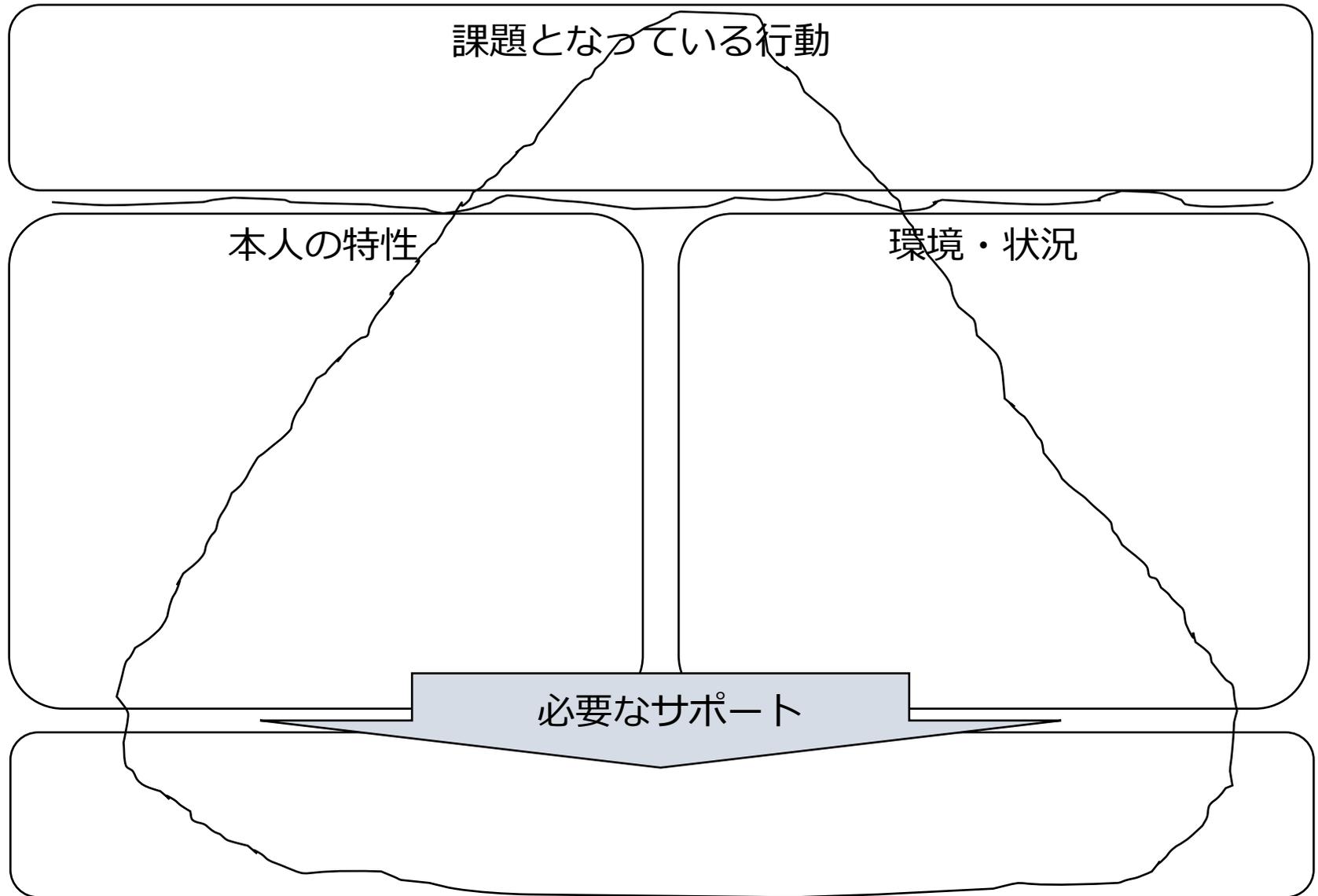
⑤特性の分析

- ・特性の把握と適切な対応

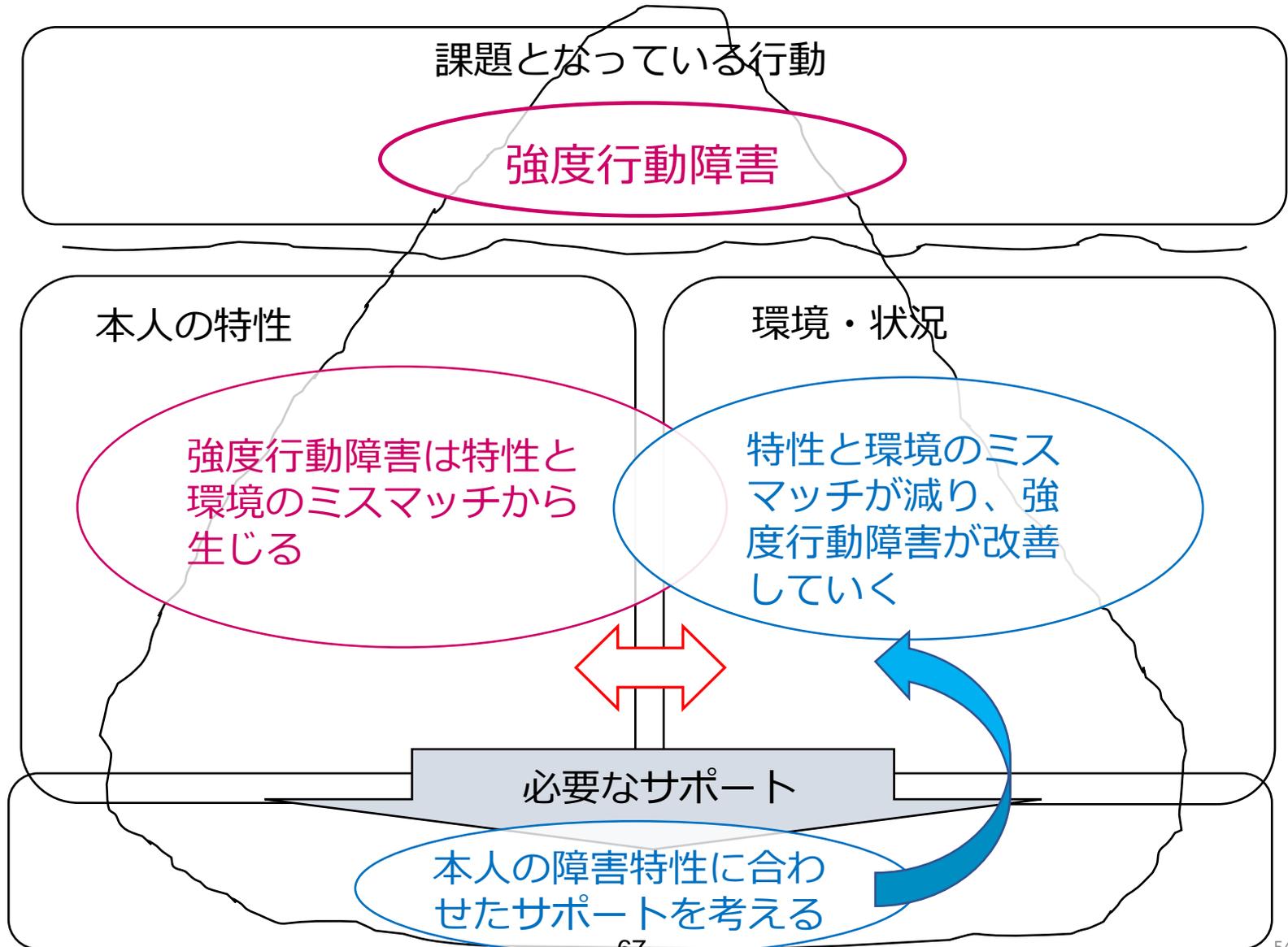
行動の背景を知るための「冰山モデル」



冰山モデルシート



冰山モデルシート



冰山モデルシートが完成しました

課題となっている行動 水遊びを止められて自傷をする

本人の特性

- 1) 相手への関心が薄い
- 5) 周囲の様子から期待されていることを理解するのが難しい
- 6) 見えないものの理解が難しい
- 7) 話し言葉の理解が難しい
- 11) どのようにして伝えたらいいかわからない
- 18) 今やるのが自分で判断することが難しい
- 19) 先の予測をすることが難しい
- 22) 興味関心が狭くて強い
- 25) 聴覚の過敏や鈍麻がある
- 27) 触覚の過敏や鈍麻がある

環境・状況

人：支援者は言葉で指示を出している
物：水道が見えやすい場所へ出かけている
場所：公園での目的が柵でゆれるか、水道で遊ぶかに見えていた
状況：どうなったら終わりかがわかりにくい
状況：公園に何をしに行ったのかわからない

必要なサポート

(支援のアイデア)

- C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える
- D) 本人が理解できる見える情報で伝える
- G) 本人に分かりやすく予定を伝える

(本人の強み→活かせるような場面や状況)

- ・お茶を見せるとベンチに座って飲むことがわかる→活動の切り替えにお茶を使えないか
- ・絵本の「くるま」を見て「外出」するのだと理解したことがある→イラストで活動を知らせられないか
- ・物に注目できる→タイマーなどで終わりを伝えられないか
- ・揺れる感覚に没頭することがある→揺れる感覚で適切な遊びを提供できないか

まとめ

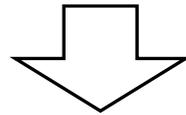
- 課題となる行動には、障害特性に起因する何らかの理由がある
- 「冰山モデル」を使った行動の背景を捉える考え方が有効
- 「本人の特性」と「環境や状況」を整理し、課題となっている要因を明らかにすることが根拠に基づいた適切な支援の第1歩
- 導き出された支援のアイデアは、本人の強みを使って具体化される

⑥ チームプレイの基本

- ・ チームプレイの必要性

本人の現在の生活は、
さまざまな関係者で支えられています。

それぞれの関係者が、本人の特性に関係なく、
思い思いのやり方で接してしまうと・・・



本人が混乱してしまう。

それぞれの場面やライフステージにおける関係者が、
本人を支えるチームのメンバーとして、
本人の特性や配慮すべきことについて共通の認識を持ち、
同じ方針に沿った統一した支援をしていくことが大切。

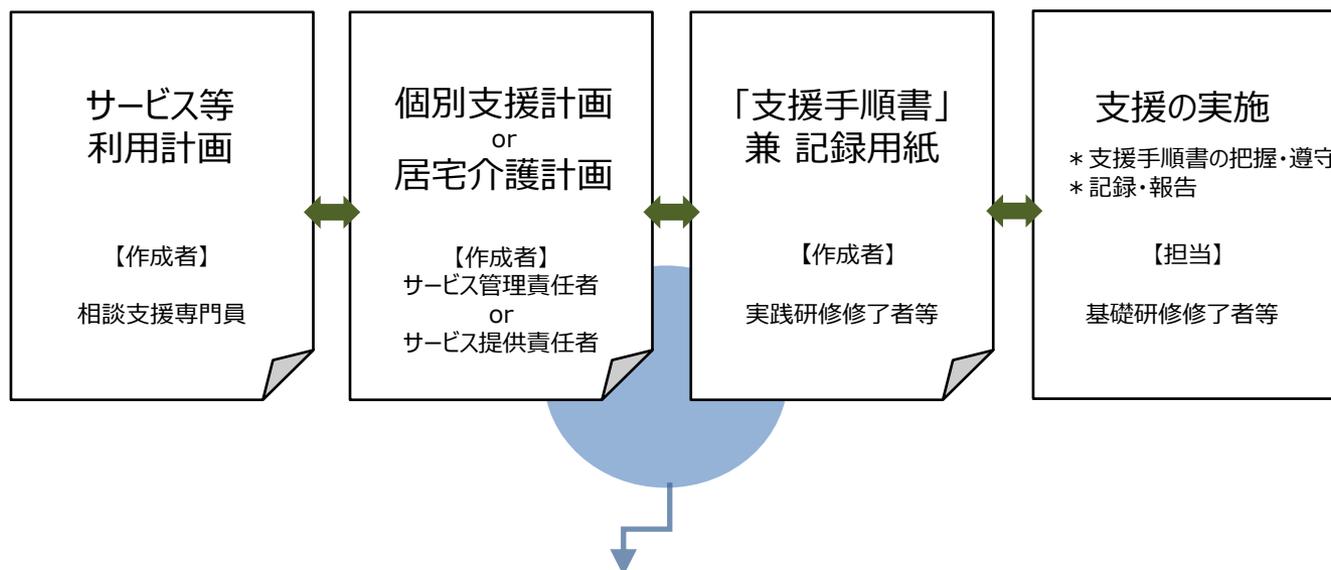
統一した支援をするために

日頃からお互いに 頻繁なやりとり（情報共有）をする

- 体調
- 生活リズム（睡眠や食事、排泄など）の変化
- 日課などの環境の変化
- 強度行動障害などの課題となる行動の有無

サービス等利用計画・
個別支援計画・支援手順書

サービス等利用計画・個別支援計画と支援手順書の関係



強度行動障害の支援においては、個別支援計画や居宅支援計画といった大まかな支援内容では、適切な支援を行うことが難しい。障害特性に配慮した留意点を整理し、日々の日課や各活動の詳細を決め、時間単位で各活動をどのような流れで行っていくかを詳細に記した「支援手順書」が必要となる。

現場で支援を実施するときには、
支援手順書に沿って支援することが大切

= 本人の特性に合わせた統一した支援

「支援手順書」の例 1 (文字)

時間	活動	サービス手順
9:30-10:00	来所	【スケジュール1：朝の準備】 静養室（スケジュール）→静養室（着替え）→静養室（休憩）→アラーム（9:50）→作業室
10:00-10:45	班別活動	【スケジュール2：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）
10:45-11:00	お茶休憩	【スケジュール3：お茶休憩】 作業室→静養室（スケジュール）→手洗い→静養室（お茶休憩）→アラーム→作業室
11:00-11:45	班別活動	【スケジュール4：DVD組み立て×2回】 作業室（作業15分）→静養室（休憩10分）→アラーム→トイレ→静養室（スケジュール）→作業室（作業15分）→静養室

【連絡事項】

- 活動の切り替えは静養室で行います。原則として活動ごとにスケジュールを確認します。
- 静養室での休憩の終わりはアラームで知らせます。
- ロッカーは静養室に移動しました。着替えは静養室で行ってください。
- ○○さんと動線が重ならないように注意してください（特に朝、休憩時間）
- 自立課題終了後、帰りの準備をするまでに20分間の休憩が入ります。

【問合せ事項】

「支援手順書」の例2 (文字)

(● ● ●) 支援手順書

時間	活動	サービス手順		メモ
		本人の行動	支援者	
16:00	おやつ	スタッフルームにて、おやつ、飲み物をもらう	カード提示により、本人におやつ、飲み物を渡す	
16:30	散歩	中庭を3~5周歩く	時間によって、回数提示を変える(1周約5~6分)	
17:00	部屋で作業	三段BOXにある作業を上から行う	時間によって量を調節する	
17:30	夕食	食堂に移動	スムーズに移動できない場合はカード提示する	
18:00	歯磨き	歯磨きを行う	仕上げ磨きを行う	
18:30	入浴	入浴準備(タオル、シャンプー、	常同行動が見られる場合は、~	

【緊急時のとき】

【気をつけておいてほしいこと】

・常同行動により、一つ一つの活動に参加するまでの時間が多大になることが多くみられている。また、他の利用者にこだわり、それが原因でトラブルになることも多く、そうなったら、他の~利用者を一時的にその場から離れてもらうなど、距離を置いて20分ほど様子を見る。

「支援手順書」の例3 (写真)

Kさん 支援手順書

起床時対応 (当直明け)



当直明け
職員が準備
6-30



押し入れ中の作業題材をテーブル横



- ① 布団干し
- ② トイレ
- ③ 着替え
- ④ ひげそり
- ⑤ 掃除
- ⑥ 新聞 (時間がなければ無し)
- ⑦ ごはん
- ⑧ 歯みがき
- ⑨ 部屋で作業
- ⑩ 朝の会



声かけは
シンプルに。

日課の説明

職員がカードを指さしながら、
本人に読んでもらう
(活動内容の説明は要りません)



本人が一番上のカ
ードを取り、カ
ード入れに入れる

自分でやらせてもら
うことが大切

※ 別途記録用紙あり

支援の実施と記録

支援手順書に従って記録する際の留意点

事前に確認しておくポイント

事前準備	支援ツールの準備など、事前の準備ができているか
支援手順書の内容	支援者が支援手順書の内容を理解できているか、内容に変更がないか
その日の状況	体調（睡眠、排便、てんかん発作などのリズムなど）やその日の状況（自宅でいつものこだわりができなかったなどで、落ち着かない様子など）にも影響を受けやすいので記録しておく

客観的な記録

記録の重要性

正しい状態像をつかむ

チームで情報を共有する

支援の効果を確認する

支援のベース

正しい状態像をつかむ

- 大変な人？大人しい人？・・・など印象では具体的な状態像がわからない
- いつ、どこで、どのような行動をとっているかなど、具体的な情報から正しい状態像を知る
- 正しい状態像を知ることによってその人にあった支援につながる

情報共有の重要性

- ・ チームで支援したり、対応を考えていく上で情報共有は重要
- ・ 直接の関わりで得られた情報をチームで共有する

情報共有のベースとなる記録

例

今日は大変
だった

何が？ 誰が？
状況がわかりにくい

田中さんの水遊びを止
めたら、頬を叩く自傷
があった。
支援者も対応に困った。

具体的に記述

具体的な状況が
共有できる

情報共有のベースとなる記録

- ・ 具体的な状況を記録する
- ・ 支援者の主観と具体的な状況をわけて記録する
- ・ 「いつ・どこで・誰が・どのように」を意識する
- ・ 読み手を意識する

→具体的な状況を共有することで、支援者の共通認識を持ちやすい

- 支援手順書に基づいて支援したが上手くいかなかったなので自分の時は対応を変えている

→バラバラの支援に

緊急時は除く

- うまくいかなかった時は上司に相談したりチームで共有する
- チームで共有し支援手順書を改定していく
- 日々の「報告・連絡・相談」が大切 

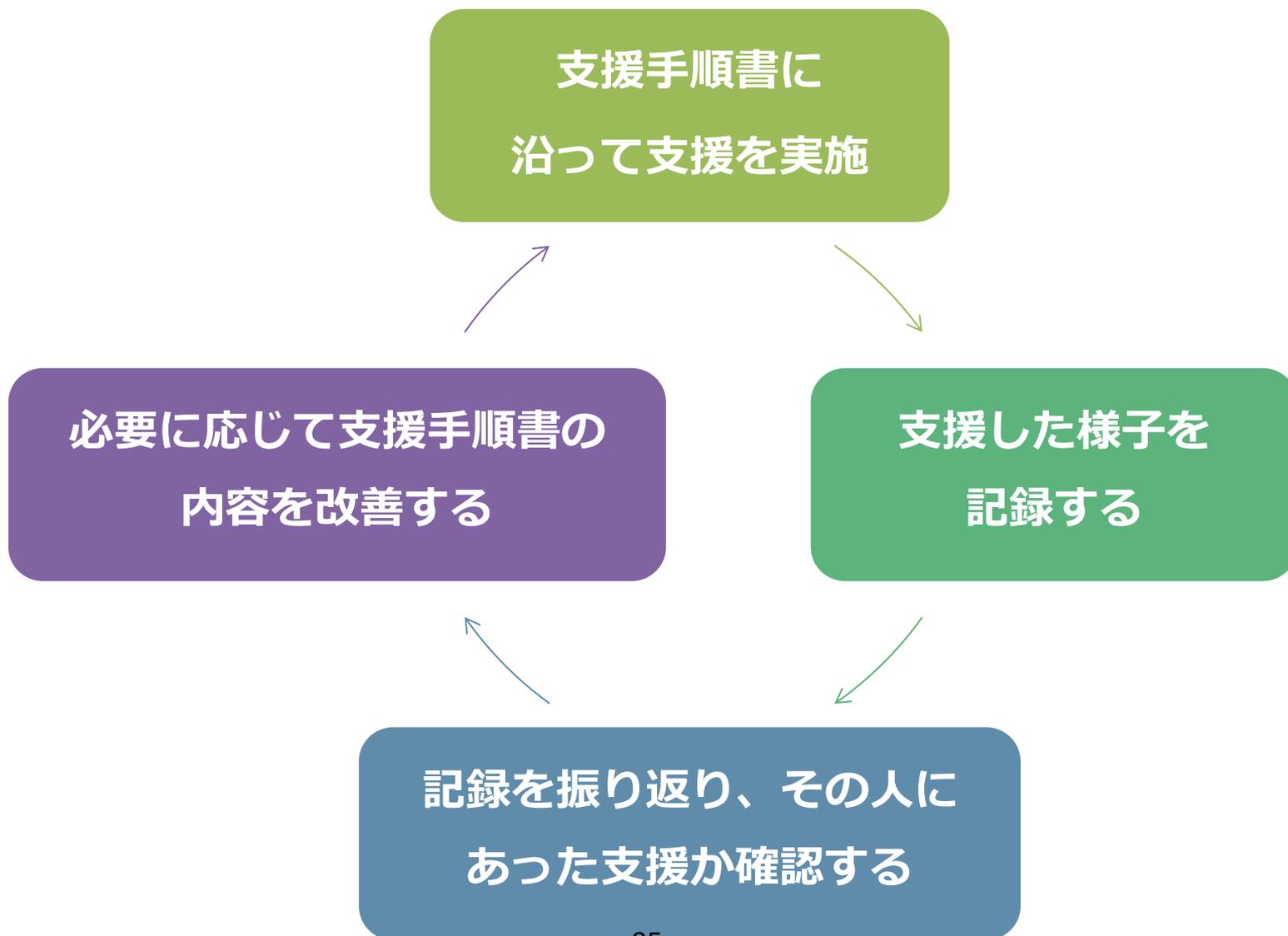
支援の効果を確認する

- 支援に取り組んだ結果が記録として残っていると振り返りしやすい
- 支援の結果を振り返りながら、その支援が適切かどうか？改善点があるか？を確認していく

計画の見直し

- 記録をもとに
 - 上手くいった支援は継続・発展させる
 - 上手くいかなかった支援は見直しする
- = 見直しを繰り返しより本人にあった
支援手順書に

支援の実施



⑦ 支援を組み立てるための基本

- ・ 支援を組み立てるための基本的な流れ

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

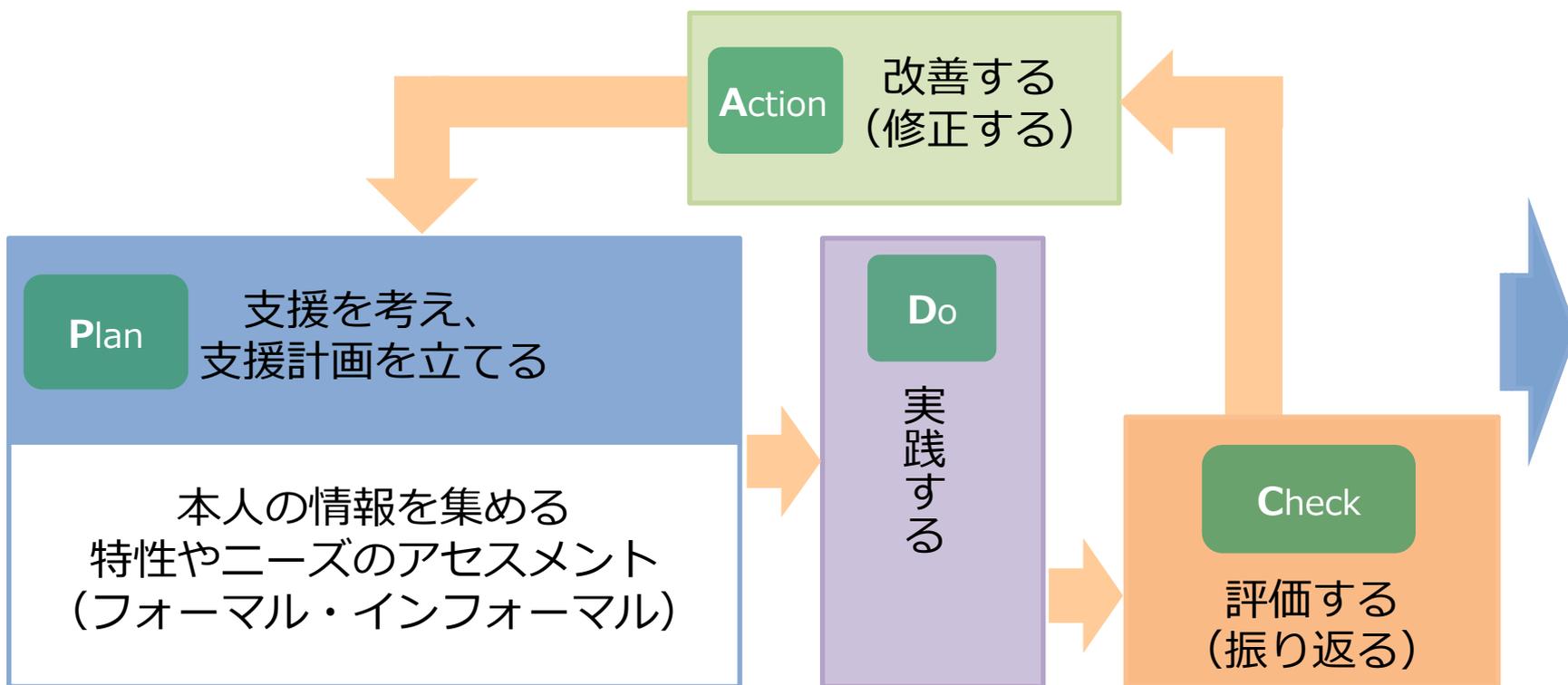
※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、Ⅲについて主にお話しします。

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



予防的で基本的な支援

③	【演習】障害特性のアセスメント① —具体的なアセスメントの方法
---	------------------------------------

99～135

アセスメントの方法①

～ 具体的なアセスメントの方法～

社会福祉法人 和歌山県福祉事業団
伊都生活総合支援センターぱる
田中康生

この時間で学ぶこと

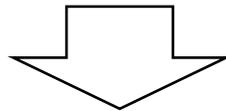
- これまで行動障害が現れやすい人たちへの支援においては、
「障害特性に合わせた支援が必要であること」
「支援者が統一した支援をすること」
が大切であることを確認してきました。
- この時間では、支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書を作成するための根拠となるアセスメントの方法について学びます。

演習の流れ



アセスメントの方法

- 具体的なアセスメントの方法



- i) アセスメントについて
- ii) 事例の紹介
- iii) 本人の行動を確認する

i) アセスメントについて

アセスメント

- ・ アセスメントとは？
「評価」や「実態把握」
- ・ 基本的なアセスメント情報
「医学的な診断」「障害支援区分」「療育手帳」など

実際の支援には、
支援の内容に直結
する詳しい情報が
必要

「フォーマルなアセスメント」
・ 知能検査、発達検査など標準化
された検査

「インフォーマルなアセスメント」
・ 日常の観察やインタビューによっ
て得られる情報

行動チェックシート

本人の行動を観察して具体的な行動を書き込むシート

本人の障害特性に基づく行動に着目することができたり、課題となる行動を絞り込むことができる

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	<input type="checkbox"/>	
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い	<input type="checkbox"/>	
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない	<input type="checkbox"/>	
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	<input type="checkbox"/>	
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	<input type="checkbox"/>	
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	<input type="checkbox"/>	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	<input type="checkbox"/>	
	発信が難しい	コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを現わす	<input type="checkbox"/>	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない	<input type="checkbox"/>	
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	<input type="checkbox"/>	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない	<input type="checkbox"/>	
		セ: やりとりが続かない	<input type="checkbox"/>	
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある	<input type="checkbox"/>	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている	<input type="checkbox"/>	
		チ: 自分から動くことができない	<input type="checkbox"/>	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い	<input type="checkbox"/>	
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い	<input type="checkbox"/>	
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い	<input type="checkbox"/>	
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない	<input type="checkbox"/>	
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	<input type="checkbox"/>	
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	<input type="checkbox"/>	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある	<input type="checkbox"/>	
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	<input type="checkbox"/>	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある	<input type="checkbox"/>	
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いを入れない場所がある、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある	<input type="checkbox"/>	

特性確認シート

本人の行動について、その背景となる特性を確認するためのシート

必ずしも「課題となっている行動」だけでなく、本人の行動から隠れている特性を整理することができる

特性に対応する支援のアイデアも確認することができる

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点） E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点） F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたらよいか分からない	
		12) 誰に伝えていいか分からない	
やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせてコミュニケーションが難しい		
	14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
	15) やりとりの量が多いと処理が難しい		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点） H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする（時間の視点・場所の視点） I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする（方法の視点） J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする（方法の視点）
		17) なんとなく、たいしたなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い		
	23) 細部が気になり違いに敏感		
	24) 少しの違いで大きな不安を感じる		
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする（場所の視点） L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

環境確認シート

本人の特性と合っていない
環境を確認するためのシート

支援する人や、さまざまな刺激・情報など見落としがちな環境の項目を振り返ることができる

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（言葉・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていきますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうしたら終わるのかなど）は理解できていますか その他	
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものです	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものです	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

強み(ストレングス)確認シート

本人の得意なこと、できることなどを確認するためのシート

具体的な支援を組み立てるときにヒントとなる

強み (ストレングス) 確認シート

本人の強み (ストレングス)	活かせそうな場面や状況
<p>わかること・できること 例) なくなったら 終わり、ペットボトルのふたを 開ける ハサミを使うのが上手 など</p>	
<p>好きなこと (遊び方、過ごし方、キャラクターなど) やりたがること 例) ハンモックで 揺れる ○○のキャラクター ピッタリはまる 色を合わせる</p>	
<p>得意なこと (これには助けられているなど) 見方を変えれば得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば 待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる</p>	
<p>その他</p>	

ii) 事例の紹介

名前：田中正則（たなかまさのり）さん(仮名)

年齢：32歳 性別：男性

診断名：自閉スペクトラム症 重度知的障害 IQ:30

利用しているサービス：共同生活援助・生活介護・
行動援護

IQについて振り返りましょう

軽度	IQ 50-69
成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当	
中度	IQ35-49
成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当	
重度	IQ20-34
成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当	
最重度	IQ 20未満
成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満	

※軽度、中度、重度、最重度の区分はICD-10による。

田中さんは、グループホームに住む重度知的障害を伴う、自閉スペクトラム症の男性です。

平日はグループホームから生活介護事業所に通い、休日は、ときどき行動援護でヘルパーさんと外出しています。

田中さんの普段の行動には、様々な自閉スペクトラム症の特性が現れています。

※「田中さんの基本情報（差込資料⑦）」参照

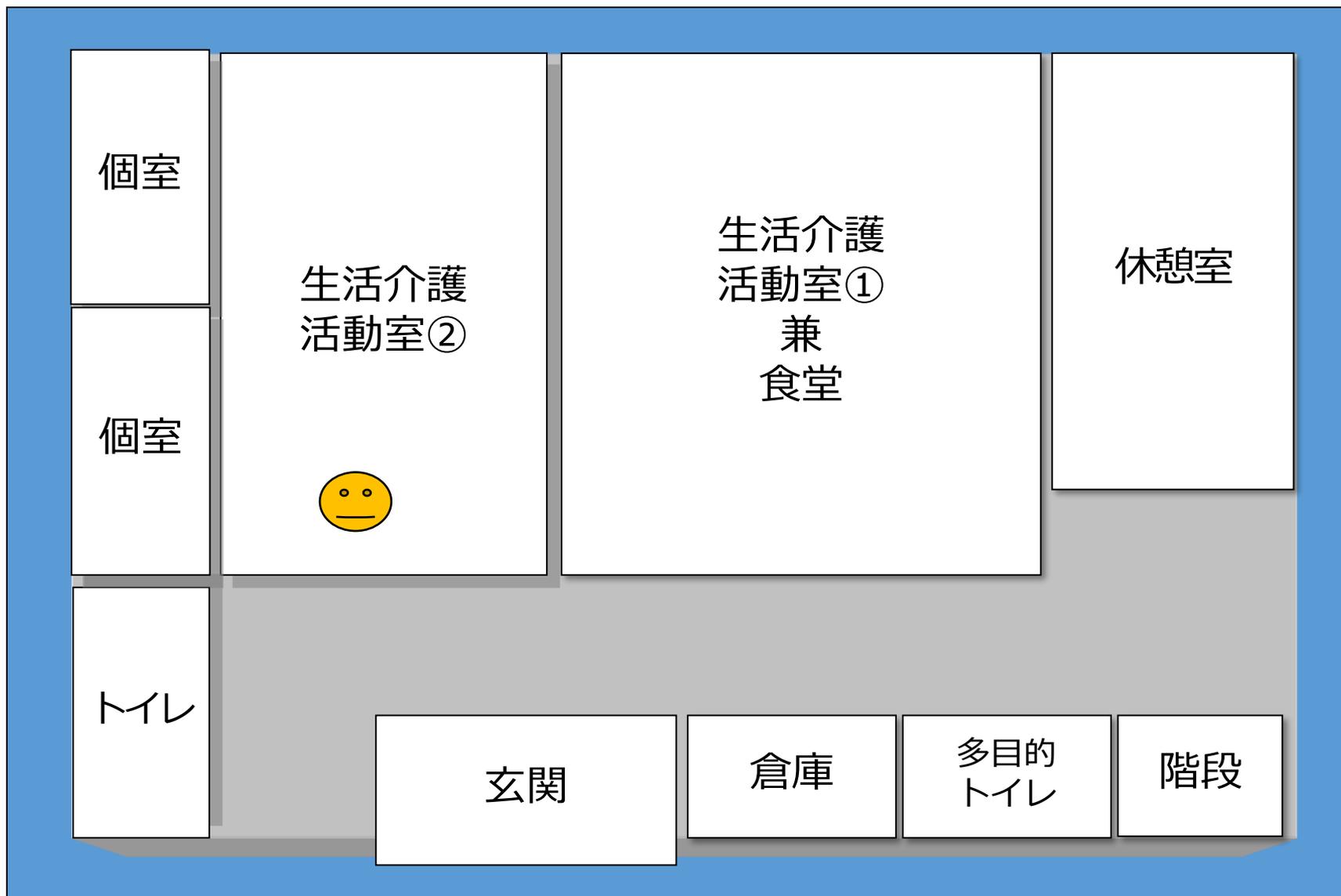
田中さんの活動場面

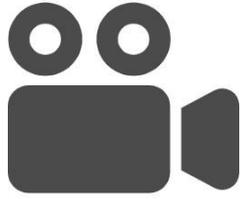
ある平日の午前中の生活介護事業所での様子です。
作業をやることになっていますが、田中さんは午後からのお出かけのことが気になっています。

担当している職員は、田中さんに作業をしてもらうために、懸命に声をかけて作業をするように促しています。

しかし、田中さんはお出かけのことが気になり、作業どころではないようです・・・。

生活介護事業所の中の配置図





動画の視聴

iii) 本人の行動を確認する

行動を見る視点の大切さ

- 行動障害のある人たちは、自分の気持ちをうまく訴えられない特性があります。
- うまく訴えられない人たちのことを理解するためには、行動が手がかりになります。
- 行動をきちんと観察することで、本人の訴えたいことだけでなく、障害の特性を理解することにもつながります。
- まずは、生活介護事業所での田中さんの具体的な行動を確認していきましょう。

行動に注目する

「行動チェックシート」を使って、田中さんの行動を確認します。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコリア)		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

個人ワーク | 行動に注目する

ワークシート①

1. 行動チェックシートで生活介護事業所での田中さんの行動を確認します。

社会性の特徴

社会性の特徴について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	<input type="checkbox"/>	
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い	<input type="checkbox"/>	
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない	<input type="checkbox"/>	
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	<input type="checkbox"/>	
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	

行動チェックシート

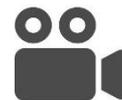
	例	✓	本人の具体的な行動
社会性	ア: 視線が合わない	<input type="checkbox"/>	
	イ: 人との関わりが一方的であることが多い	<input type="checkbox"/>	
	ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	
	エ: 周囲に合わせて行動できない	<input type="checkbox"/>	
	オ: 周囲の状況に対して興味を示さない	<input type="checkbox"/>	
	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する	<input type="checkbox"/>	
コミュニケーション	キ: 言葉で指示しても行動できない	<input type="checkbox"/>	
	ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	<input type="checkbox"/>	
	ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーア）	<input type="checkbox"/>	
	コ: 行動や仕度などで自分の気持ちを現わす	<input type="checkbox"/>	
	サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない	<input type="checkbox"/>	
	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	<input type="checkbox"/>	
想像力	ス: やりとりが合わない	<input type="checkbox"/>	
	セ: やりとりが難しい	<input type="checkbox"/>	
	ソ: 誰かに話しかけたり、話しかけられる	<input type="checkbox"/>	
	タ: やることがないときばかり口を開いている、しゃべっている	<input type="checkbox"/>	
	チ: 自分から動くことができない	<input type="checkbox"/>	
	ツ: 予定の変更が難しい	<input type="checkbox"/>	
感覚	テ: 予定の変更が難しい	<input type="checkbox"/>	
	ト: 目標が変更されると混乱することが多い	<input type="checkbox"/>	
	チ: 活動を途中でやめたり、変更することができない	<input type="checkbox"/>	
	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある	<input type="checkbox"/>	
	ホ: 特定の物などへの以外に関心を示すことができない	<input type="checkbox"/>	
	ヘ: 細かいことが気になるようになってやるべきことができないことがある	<input type="checkbox"/>	
興味	リ: 目を離すと、特定の物を探る、特定の音を大音量にする、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ロ: 目を離すと、目を戻す、指先打を繰り返す、キョキキョキと泣く、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ハ: 特定の物などに没頭する、物事に没頭する、または興味していないような行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ニ: 特定の物、場所、音、味、匂い、色を好む、同じものを好む、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ホ: 特定の物、場所、音、味、匂い、色を好む、同じものを好む、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	
	ヘ: 特定の物、場所、音、味、匂い、色を好む、同じものを好む、などの行動がある	<input type="checkbox"/>	

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	
		イ: 人との関わりが一方向的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう



行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	()
		イ: 人との関わりが一方向的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		

コミュニケーションの特性

コミュニケーションの特性について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)		
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

行動チェックシート

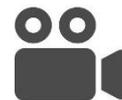
		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	状況の理解が難しい	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
		エ: 周囲に合わせる行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)		
		コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
想像力	物への対応が難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
		タ: やることがいておにのりしている、しっぺしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の出来に混乱することが多い		
感情	感情が敏感または鈍感	テ: 自分のルールを破ると怒れることが多い		
		ト: 目標が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動や途中でやりとり、変更することができない		
		ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
行動	特定の興味の対象がある	ジ: 話を聞く、特定の音や言葉を聞く、特定の音や言葉を繰り返す、などの行動がある		
		チ: 特定の音や言葉を繰り返す、特定の音や言葉を繰り返す、などの行動がある		
		リ: 特定の音や言葉を繰り返す、特定の音や言葉を繰り返す、などの行動がある		
		ロ: 特定の音や言葉を繰り返す、特定の音や言葉を繰り返す、などの行動がある		
		ハ: 特定の音や言葉を繰り返す、特定の音や言葉を繰り返す、などの行動がある		
		ヘ: 特定の音や言葉を繰り返す、特定の音や言葉を繰り返す、などの行動がある		

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう



行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	() 支援者が「作業しましょう」と言っても座っている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコリア)	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	()
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

想像力の特徴

想像力の特徴について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

行動子チェックシート

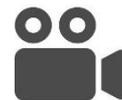
		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせず行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
コミュニケーション	理解が難しい	カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
		キ: 言葉で指示しても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
	発信が難しい	ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーアクト)		
		コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす		
		カ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
	やりとりが難しい	シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない		
		ス: やりとりが合わない		
		セ: やりとりが難しい		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	ソ: 予定に気が付かぬ、思い込みがある		
		タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない		
	変化への対応が難しい	ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
		テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
	物の一部に対する強い興味	ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
		ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
		ノ: 目を覆い、特定の物に執着する、特定の物を入念に観察する、他人の行動がある		
		ハ: 感じ取る、目を閉じる、特定の物を嗅ぐ、今より早くに気づく、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感情に没頭する、極端に喜ぶ、または悲しい気持ちになる行動がある		
		フ: 強い衝動、衝動的な高い声を出す、同じしほばかりをやる、など行動がある		
		ヘ: 特定の物に執着がある、特定の物に執着がある、思い入れがない物がある、などの行動がある		
		ホ: クラカと音、ロケット音が多い、高い場所が好き、不規則な、身体の動かし方に特徴がある		
		ヘ: クラカと音、ロケット音が多い、高い場所が好き、不規則な、身体の動かし方に特徴がある		

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう



行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		()	
		チ: 自分から動くことができない	✓		
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い			
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い			
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い			
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない			
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある			
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓		お出かけにこだわり作業ができない
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある			

感覚の特性

感覚の特性について、田中さんの行動に現れているところを確認してみましょう。

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感覚	感覚が敏感または鈍感	シ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動チェックシート

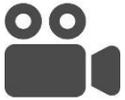
		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない		
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する		
		エ: 周囲に合わせず行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
コミュニケーション	理解が難しい	カ: 意図や表情、社会のルールに関係なく行動する		
		キ: 言葉で指示しても行動できない		
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする		
		ケ: 相手の言葉をもそのまま繰り返す（エコーリア）		
		コ: 行動や仕事などで自分の気持ちを現わす		
	発信が難しい	カ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		キ: 言葉はあるが自分の気持ちと正確に伝えることができない		
		ク: やりとりが合わない		
		ケ: やりとりが難しい		
		コ: 言葉が通じない、聞き取り、聞き返しが多い		
想像力	自分が予定を立てることが難しい	カ: やることがないときに口を開いている、じっとしている		
		キ: 自分から動くことができない		
		ク: 予定の放棄に慣れていることが多い		
		ケ: 自分のルールを変えたと認識することが多い		
		コ: 目標が変更されると混乱することが多い		
	物への対応が難しい	カ: 活動を途中で中断したり、変更することができない		
		キ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ク: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない		
		ケ: 興味がないものによってやるべきことができないこと		
		コ: 嫌いな物、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	シ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある		
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある		
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある		
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

例えば、このような行動に注目します

行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感 覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

チェックが入っているところに本人の具体的な行動を書き込んでみましょう



行動チェックシート

		例	✓	本人の具体的な行動
感 覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	() キラキラした刺激が好き (基本情報より)
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動に注目するということ

- この後の演習では、「作業中に自傷をする」という田中さんの行動について、その背景を探っていき、必要なサポートを整理したうえで、田中さんに合った支援の手順書を作っていきます。
- しかし、支援を組み立てるためには、自傷することだけに注目するのではなく、田中さんがさまざまな苦手さをもっていることに気づくことが大切です。
- 検討すべき行動を探すためだけではなく、本人の特性に気づくためにも客観的な観察（アセスメント）が必要です。

④	【演習】 障害特性のアセスメント② —障害特性に基づくアセスメント
---	--------------------------------------

136～190

アセスメントの方法②

～ 障害特性に基づくアセスメント～

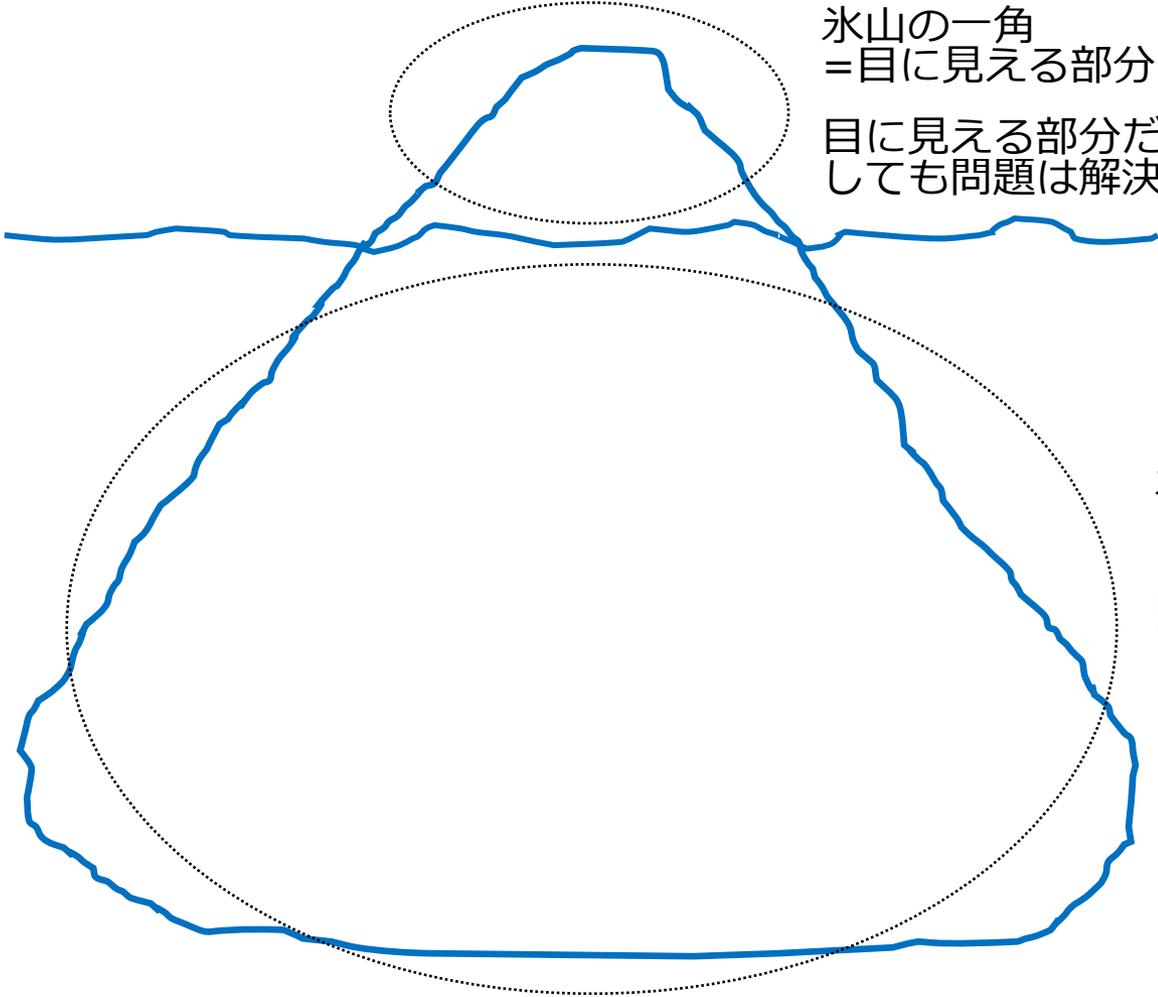
社会福祉法人 和歌山県福祉事業団
伊都生活総合支援センターぱる
田中康生



- i) 氷山モデルについて
- ii) 課題となる行動の確認
- iii) 本人の特性を整理する
- iv) 行動に影響を与えている環境や状況を整理する
- v) 必要なサポートを整理する

i) 氷山モデルについて

行動の背景を知るための「冰山モデル」



The diagram illustrates the iceberg model of behavior. A solid blue line represents the visible part of the iceberg above the water surface. A dotted line represents the much larger, submerged part of the iceberg below the surface. A horizontal line indicates the water level. A small dotted circle highlights a peak of the visible part, while a larger dotted circle encompasses the entire submerged part.

氷山の一角
=目に見える部分

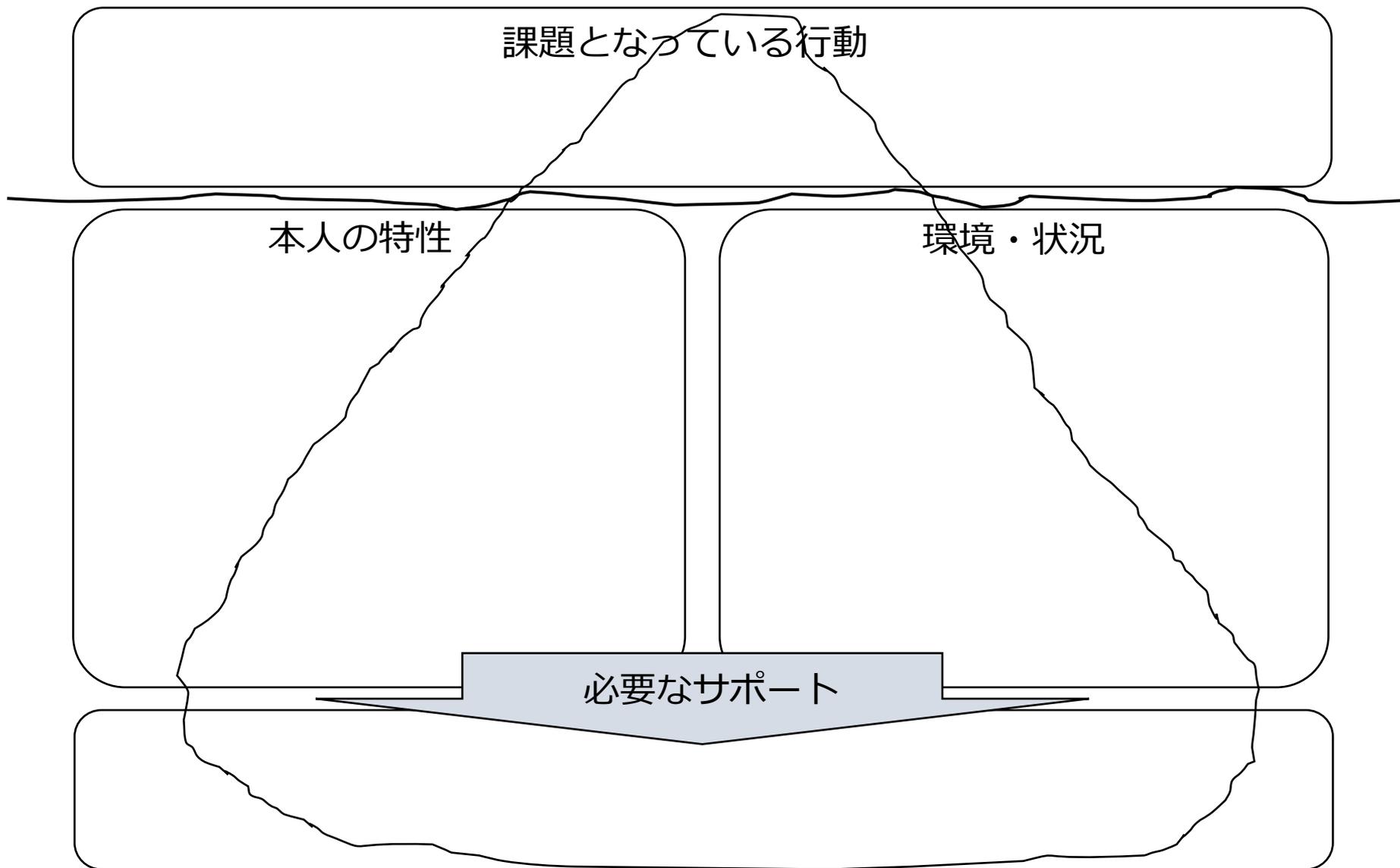
目に見える部分だけに対応を
しても問題は解決しない。

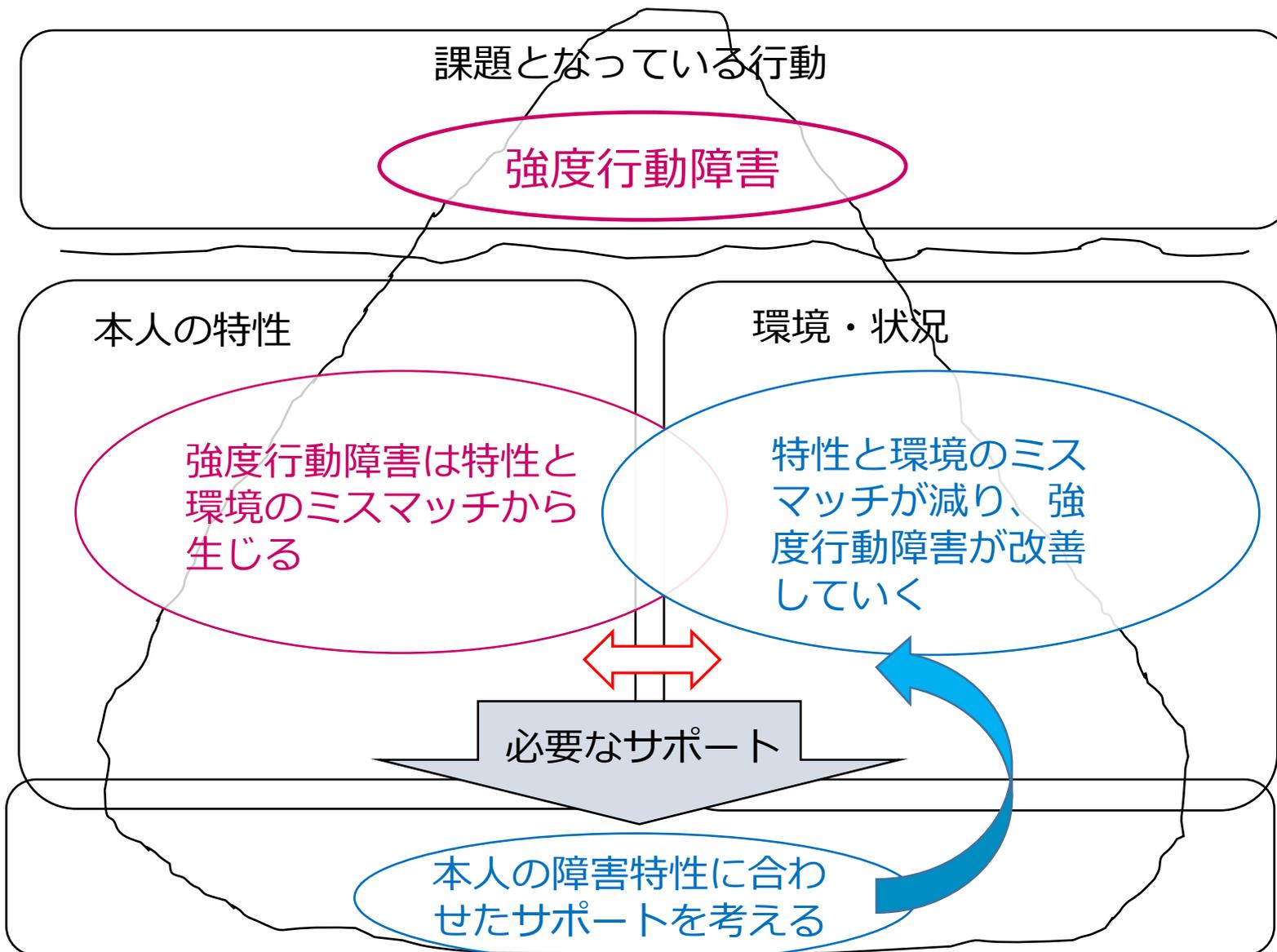
水面下に大きな塊がある
=目に見えない部分

目に見えない部分を理解して
アプローチすることで、表面
に出ている問題が小さくなる。

氷山モデルシート

ワークシート②





氷山モデルシートと補足シートの関係

ワークシート①/③

項目	内容	評価	補足シートとの関係
1. 行動チェックシート	1. 行動チェックシート		行動チェックシート
2. 特性確認シート	2. 特性確認シート		特性確認シート
3. 環境確認シート	3. 環境確認シート		環境確認シート
4. 支援のアイデア	4. 支援のアイデア		支援のアイデア
5. 強み確認シート	5. 強み確認シート		強み確認シート

行動チェックシート

ワークシート④

項目	内容	評価	補足シートとの関係
1. 特性確認シート	1. 特性確認シート		特性確認シート
2. 支援のアイデア	2. 支援のアイデア		支援のアイデア
3. 環境確認シート	3. 環境確認シート		環境確認シート
4. 強み確認シート	4. 強み確認シート		強み確認シート

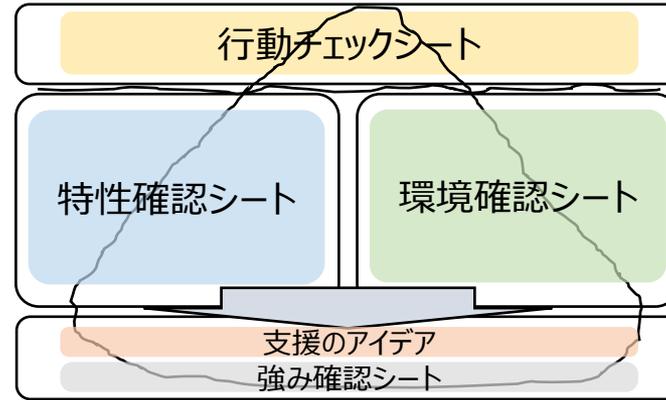
特性確認シート

支援のアイデア

ワークシート⑤

項目	内容	評価	補足シートとの関係
1. 環境確認シート	1. 環境確認シート		環境確認シート
2. 強み確認シート	2. 強み確認シート		強み確認シート

環境確認シート



項目	内容	評価	補足シートとの関係
1. 強み確認シート	1. 強み確認シート		強み確認シート
2. 環境確認シート	2. 環境確認シート		環境確認シート

強み確認シート

ワークシート⑥

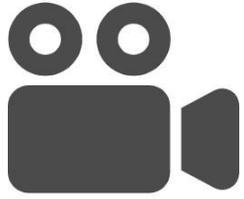
ii) 課題となる行動の確認

課題となる行動の表出

お出かけが気になって、田中さんはなかなか作業ができません。

田中さんに作業をしてもらうために、職員も懸命に働きかけています。

ある時、お出かけが気になる田中さんを職員が制止しようとする、田中さんは大きな声をあげて飛び跳ねながら自分の顔を叩いてしまいました。



動画の視聴

行動チェックシート

行動チェックシートの追加

		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない 支援者が作業をするようにはたらかけても動かない、水道へに行く、「お出かけ」と言って歩き出す
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている 支援者が「作業をしましょう」と言うと水道へに行く 「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す 「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きだす 「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		部屋に入るとイスに座ってじっとしている
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	✓	常に耳をふさいでいる キラキラした刺激が好き（基本情報より） 水道の水を長時間触っている
		ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある	✓	
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある	✓	
		フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある		
		ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある		
		ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある		

行動チェックシートの追加

ワークシート④

行動チェックシート

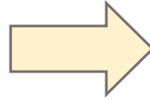
		例	✓	本人の具体的な行動
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	支援者が「作業をしましょう」と言うと水遊びに行く
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	「お出かけ」と言って立ちあがる、歩きだす
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
		ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある		

「行動チェックシート」の中から課題となっている行動を確認します

行動チェックシート

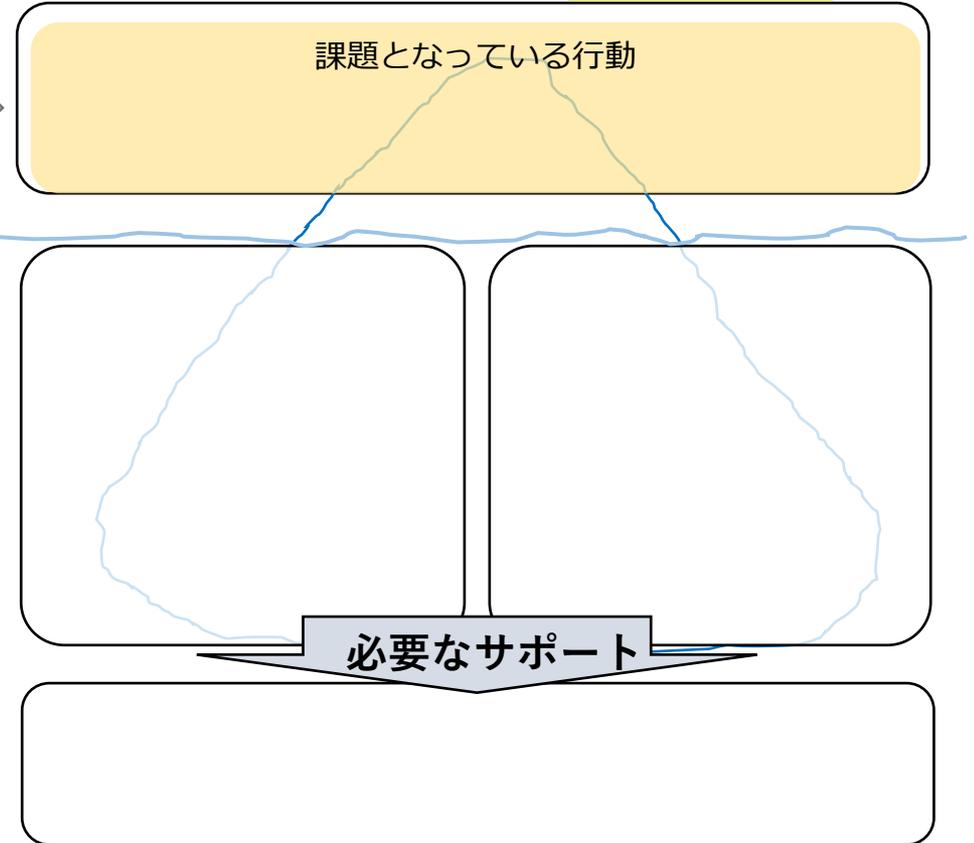
ワークシート③

		例	✓	本人の具体的な行動	
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない			
		イ: 人との関わりが一方的であることが多い			
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する			
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない			
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない			
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する			
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない			
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする			
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す (エコーリア)			
	発音が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす			
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない			
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない			
	やりとりが難しい	ス: やりとりが合わない			
		セ: やりとりが続かない			
		ソ: 衝突に話し始めたり、黙り込むことがある			
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにクワクワしている、じっとしている			
		チ: 自分から動くことができない			
		ツ: 予定の変更で混乱することが多い			
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い			
		ト: 目標が変更されると混乱することが多い			
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない			
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある			
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない			
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある			
感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を犬音、雷にする、などの行動がある			
		ハ: 乾しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある			
		ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じてほしいような行動がある			
		フ: 辛い食べ物、刺激の強い味を好み、同じものばかりを食べる、など行動がある			
		ヘ: 特定の臭いを嫌がる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある			
		ホ: クルクル回る、ロッピングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある			



冰山モデルシート

ワークシート②



ワークシート③

行動チェックシート

ワークシート③

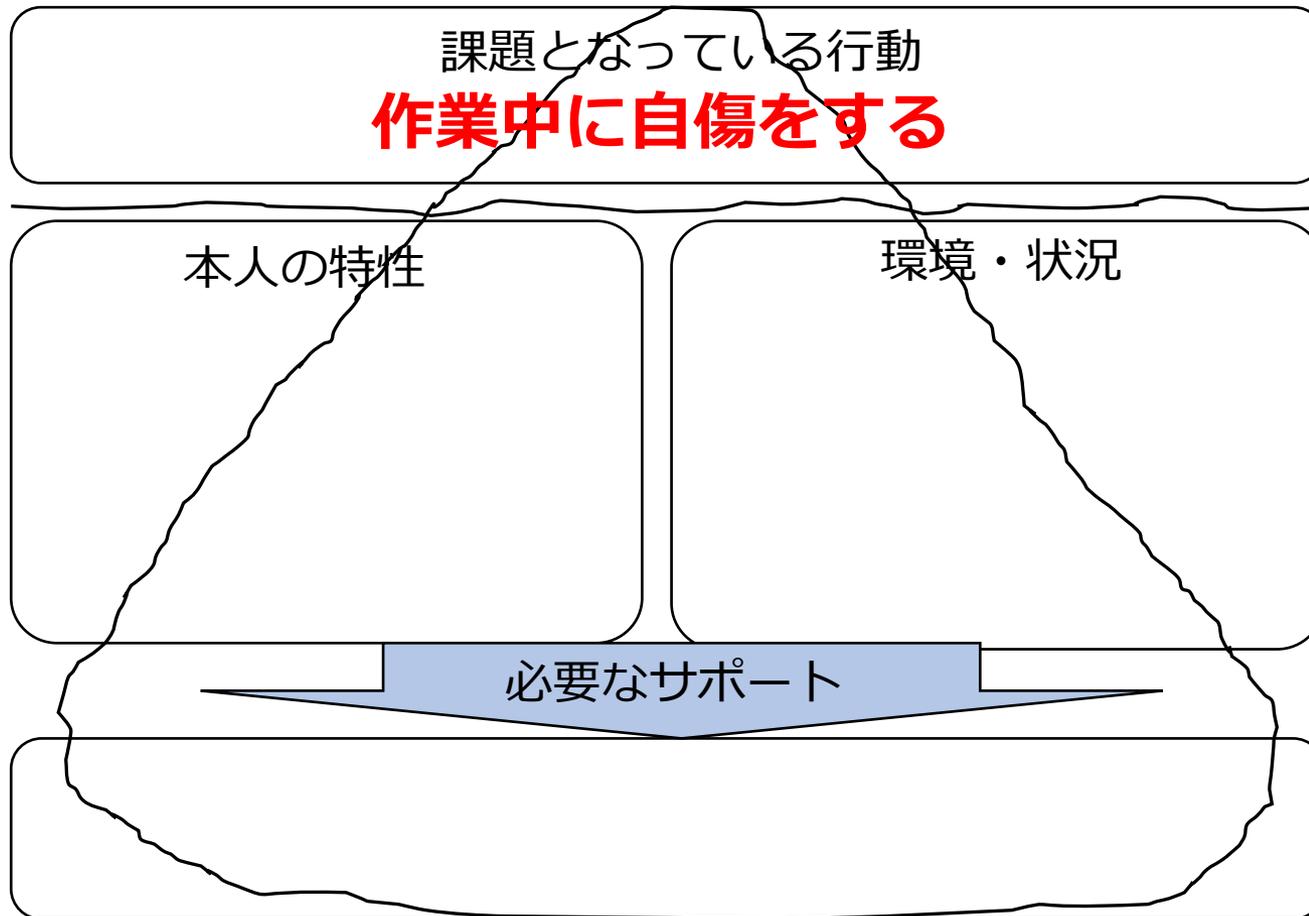
		例	✓	本人の具体的な行動
社会性	人や集団との関係に難しさがある	ア: 視線が合わない	✓	支援者が話しかけても支援者の方を向かない 支援者が作業をするようにはたらかけても動かない、水遊びに行く、「お出かけ」と言って歩き出す
		イ: 人の関わりが一面的であることが多い		
		ウ: 相手の気持ちに関係なく行動する	✓	
	状況の理解が難しい	エ: 周囲に合わせて行動できない		
		オ: 周囲の状況に対して興味を示さない		
		カ: 危険や迷惑、社会のルールに関係なく行動する		
コミュニケーション	理解が難しい	キ: 言葉で指示をしても行動できない	✓	支援者が「作業をしましょう」と言っても座っている 支援者が「作業をしましょう」と言うとき水遊びに行く 「作業をしましょう」と言われて「作業」と繰り返す 「お出かけ」と言って立ちあがる、歩き出す支援者から止められて作業中に自傷をする 「お出かけ」という言葉だけで自分の気持ちを伝えようとしている
		ク: 言葉で指示されたことと違うことをする	✓	
		ケ: 相手の言葉をそのまま繰り返す（エコーリア）	✓	
	発信が難しい	コ: 行動や仕草などで自分の気持ちを現わす	✓	
		サ: 言葉で自分の気持ちを伝えることができない		
		シ: 言葉はあるが自分の気持ちを的確に伝えることができない	✓	
	やりとりが難しい	ス: やりとりがかみ合わない		
		セ: やりとりが続かない		
ソ: 唐突に話し始めたり、黙り込むことがある				
想像力	自分で予定を立てることが難しい	タ: やることがないときにウロウロしている、じっとしている		部屋に入るとイスに座ってじっとしている
		チ: 自分から動くことができない	✓	
		ツ: 予定の変更に混乱することが多い		
	変化への対応が難しい	テ: 自分のルールを変えると混乱することが多い		
		ト: 日課が変更されると混乱することが多い		
		ナ: 活動を途中でやめたり、変更することができない		
	物の一部に対する強い興味	ニ: 特定の物などへのこだわりや執着がある		
		ヌ: 自分の興味があるもの以外に関心を示すことができない	✓	
		ネ: 細かいことが気になってやるべきことができないことがある		
	感覚	感覚が敏感または鈍感	ノ: 耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、特定の音を大音量にする、などの行動がある	
ハ: 眩しがる、目を閉じる、蛍光灯を嫌がる、キラキラに没頭する、などの行動がある			✓	
ヒ: 特定の感触に没頭する、極端に嫌がる、または感じていないような行動がある			✓	
フ: 著しい偏食、刺激の強い味を好む、同じものばかり食べる、など行動がある				
ヘ: 特定の臭いを嗅ぎたがる、極端に嫌がる、臭いで入れない場所がある、などの行動がある				
ホ: クルクル回る、ロッキングが多い、高い場所が好き、不器用等、身体の動かし方に特徴がある				

「お出かけ」と言って立ち上がる、歩き出す、支援者から止められて
作業中に自傷をする

今回は、この行動に対応する支援手順書を作っていきます。

氷山モデルを使って田中さんの行動を整理します

ワークシート②



課題となっている行動

1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
2. 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動

以上3つの条件のうち少なくともひとつに該当する行動と言われる。

参考文献『発達障害児の問題行動その理解と対応マニュアル』志賀利一

1. 自分自身の生命あるいは健康に著しい危険を与える行動
→自傷で田中さんがケガをするかもしれない
2. 周囲の人あるいは状況に著しい危険ないし混乱を与える行動
→大声を聞いた他の利用者が恐怖を感じるかもしれない
→支援者も恐怖を感じるかもしれない
3. 自分自身の意味ある活動への参加や学習を著しく妨げる行動
→作業ができなくなるかもしれない

iii) 本人の特性を整理する

「特性確認シート」を使って本人の特性を整理します

特性確認シート

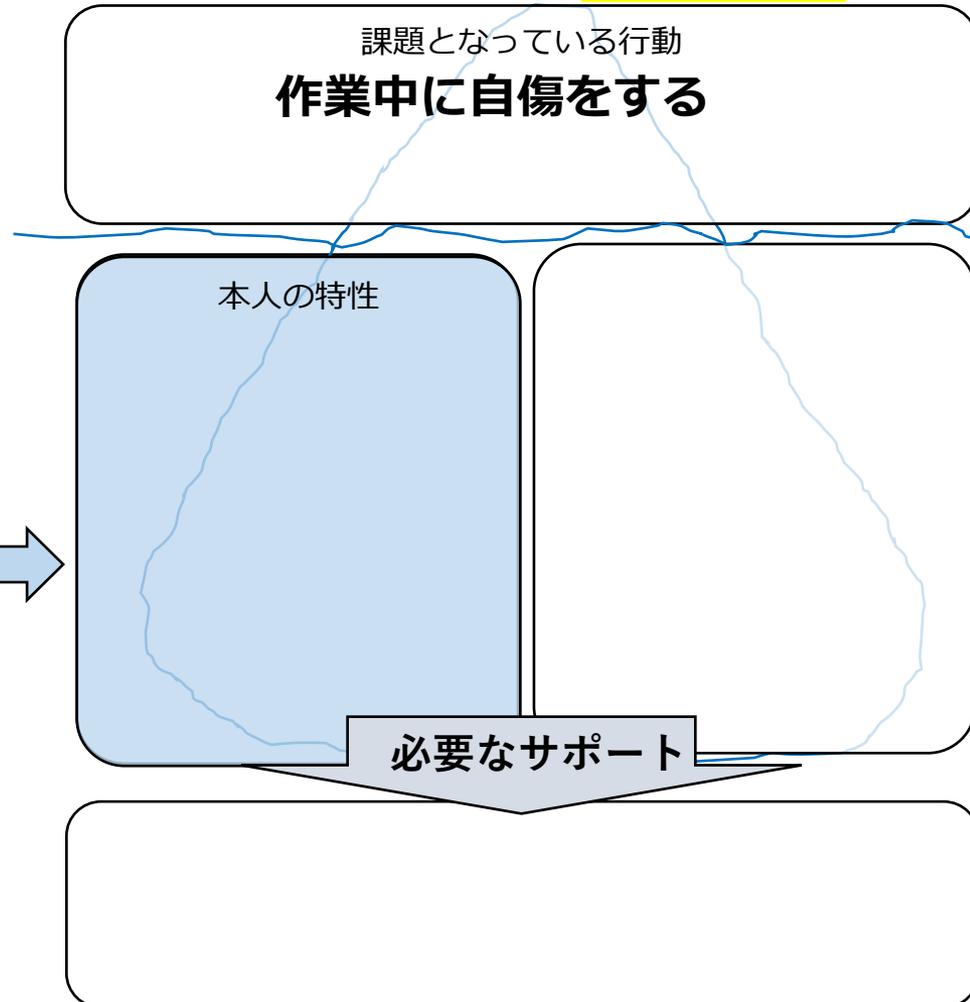
ワークシート④

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
		4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
	状況の理解が難しい	5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
		13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点) I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
24) 少しの違いで大きな不安を感じる			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍感がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍感がある	
		27) 触覚の過敏や鈍感がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍感がある	
		29) 味覚の過敏や鈍感がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	



冰山モデルシート

ワークシート②



田中さんが作業中に自傷をする理由を考えます

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷する 』			
	背景となる特性	支援のアイデア	
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い <input checked="" type="checkbox"/>	汲み取ってもらい、察してもらではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) A) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかる C) ように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点) E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたいか分からない	
		12) 誰に伝えていいか分からない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりをわかりやすいようにする(時間の視点・場所の視点) I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	
		23) 細部が気になり違いに敏感	
24) 少しの違いで大きな不安を感じる			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

個人ワーク | 本人の特性を整理する

→ワークシート④

1. 特性確認シートで「作業中に自傷をする」
に
関係する特性をピックアップします。
2. 氷山モデルシートの本人の特性の欄に転記
します。 →ワークシート②

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

ワークシート④

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	

<次のような仮説を立てながらチェックを入れます。>

「 相手への関心が薄い (=背景となる特性) 」ので、
 「 _____ (=本人の具体的な行動) 」かもしれない。

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に 難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、 具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの 視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える (見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかる ように伝える (方法の視点・やりとりの視 点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えないものの理解が難しい	

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動） 『 作業中に自傷する 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点） E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点） F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	

背景となる特性をチェックするにあたって、次のような仮説を立てて説明できるようにしてください。

(背景となる特性)

(本人の具体的な行動)

「 」ので、「 」かもしれない。

「 」ので、「 」かもしれない。

「 」ので、「 」かもしれない。

田中さんが作業中に自傷をする背景と考えられる特性にチェックを入れてみましょう

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷をする 』			
		背景となる特性	支援のアイデア
感 覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする (場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する (場所の視点)
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	

グループワーク | 本人の特性を整理する

1. 司会・記録・発表を決めます
2. 「作業中に自傷をする」に関係する特性をグループで共有します
※「冰山モデルシート(グループ用)」に記入

iv) 行動に影響を与えている
環境や状況を整理する

「環境確認シート」を使って行動に影響を与えている環境や状況を整理します

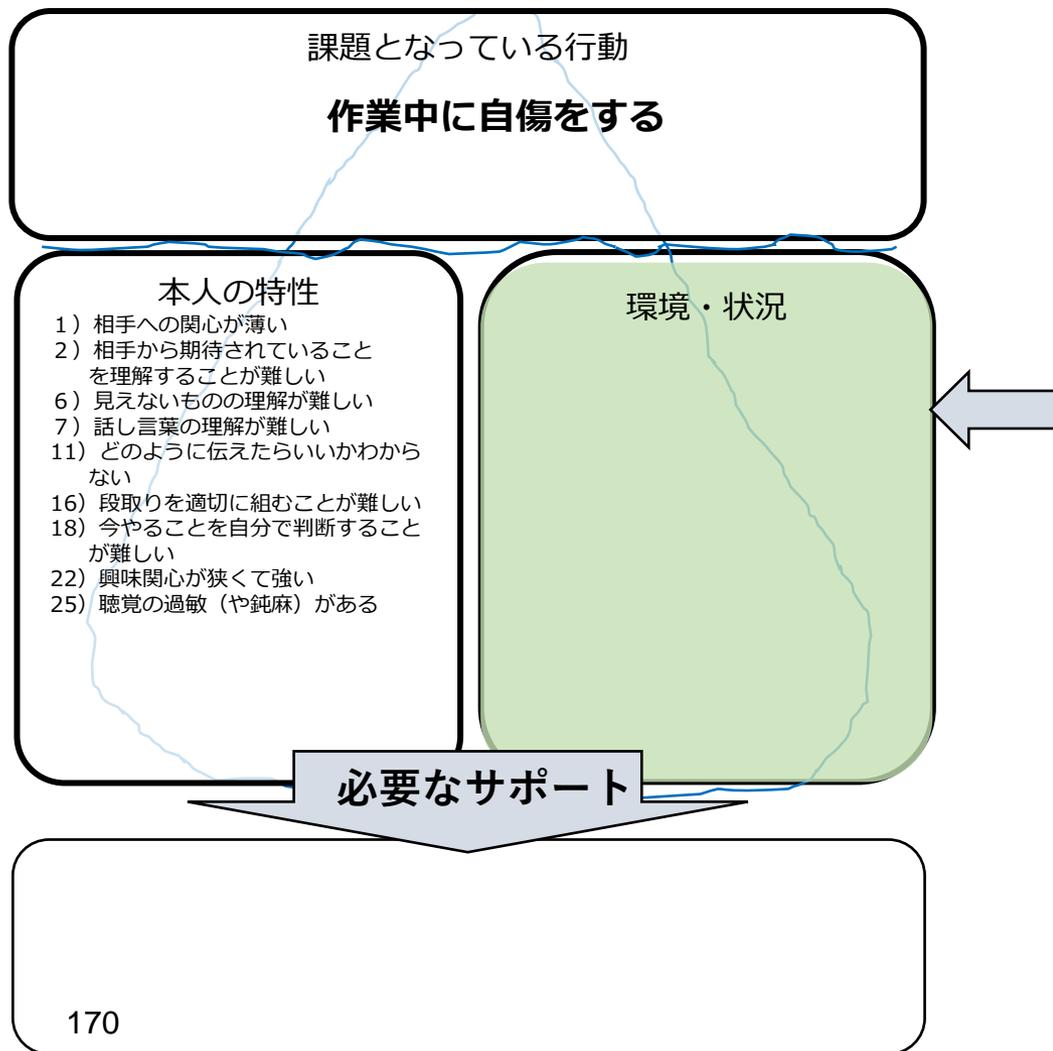
ワークシート⑤

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（言葉・指差し・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感覚などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったら終わるのかなど）は理解できていますか その他	
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

ワークシート②

氷山モデルシート



次のような項目を確認しながら、田中さんの行動に関わりがありそうな具体的な環境を記入します

ワークシート⑤

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
人	指示は何で出していますか（言葉・指さし・実物・紙に書いて等） 指示の量は適切ですか 指示のタイミングは適切ですか 支援をするときの立ち位置は適切ですか その他	
物	見ると勘違いするような物がありますか 見ると気になるような物が見えていますか 物の量で気づいたことはありますか その他	
場所	何をすべき場所なのか見ればわかるようになっていますか 同じ場所で複数の目的の活動をしていますか 整理整頓はできていますか 気が散りやすい環境になっていませんか その他	
状況	本人の体調はいつもと比べてどうですか その活動の前に気になるできごとはありませんでしたか その活動の内容に本人の苦手な動作や感触などが含まれていませんか その活動の目的（どうするのか、どうなったなら終わるのかなど）は理解できていますか その他	

次のような項目を確認しながら、田中さんの行動に関わりがありそうな具体的な環境を記入します

ワークシート⑤

環境確認シート

項目	環境確認の視点	具体的な環境
音	その場所にはどんな音がしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
気温	その場所の気温は何度くらいでしたか（あるいは暑かった・寒かった等） その気温は本人にとって快適なものですか	
湿度	その場所の湿度は何%くらいでしたか（あるいは蒸していた・乾燥していた等） その湿度は本人にとって快適なものですか	
臭い	その場所にはどんな臭いがしていましたか その中に本人が苦手そうなものはありますか	
その他	その他本人が不安定になる要因になるかもしれないもの	

個人ワーク | 環境や状況を整理する

1. 環境確認シートで「作業中に自傷をする」
ときの環境や状況を書き出します。
2. 冰山モデルシート of 環境・状況の欄に転記
します。 → **ワークシート②**



グループワーク | 環境や状況を整理する

1. 「作業中に自傷をする」ときの環境や状況をグループで共有します

※氷山モデルシート（グループ用）に記入

V) 必要なサポートを整理する

必要なサポートを「特性確認シート」の「支援のアイデア」を使って整理します

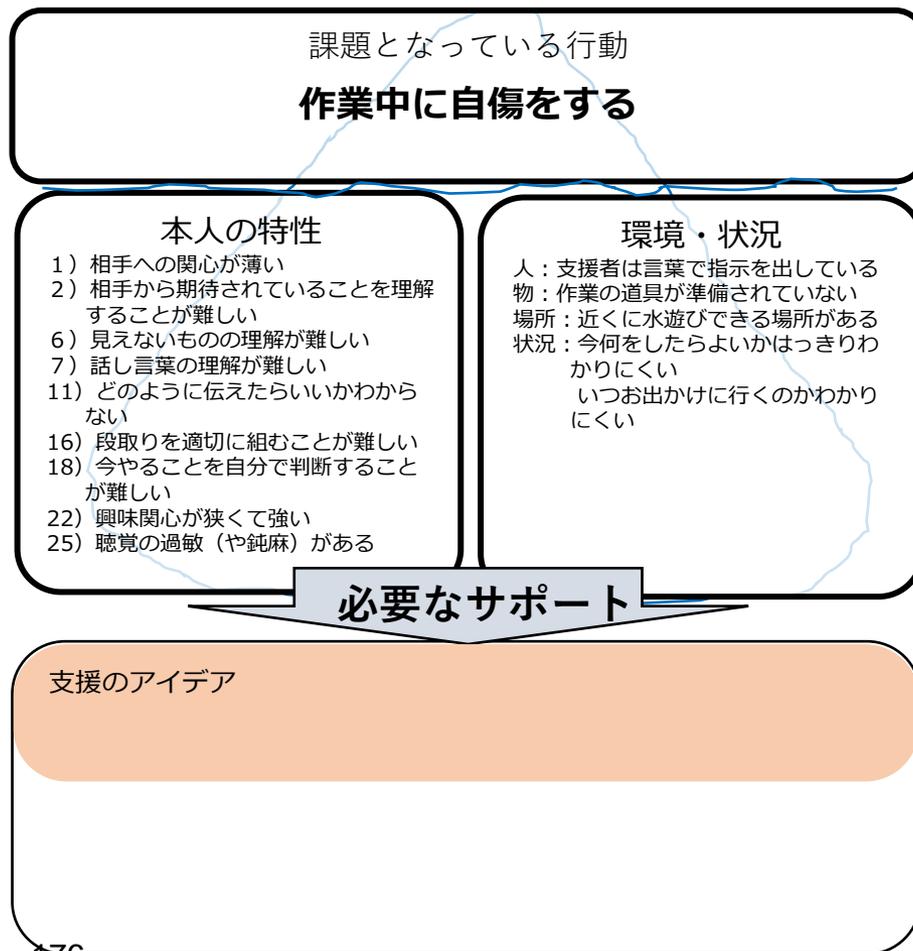
特性確認シート

ワークシート④

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』		
	背景となる特性	支援のアイデア
社会性	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらふ、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点) C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
	2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
	3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	
	5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
	6) 見えないものの理解が難しい	
コミュニケーション	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点) E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点) F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
	8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
	9) 抽象的であまりな表現の理解が難しい	
	10) 話し言葉で伝えることが難しい	
	11) どのようにして伝えたいかわからない	
	12) 誰に伝えていいかわからない	
想像力	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点) H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点) I) 活動に興味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点) J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする(方法の視点)
	14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
	15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
	16) 段取りを適切に組むことが難しい	
	17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
	18) 今やることを自分で判断することが難しい	
感覚	19) 先の予測をすることが難しい	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点) L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)
	20) 臨機応変に判断することが難しい	
	21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	22) 興味関心が狭くて強い	
	23) 細部が気になり違いに敏感	
	24) 少しの違いで大きな不安を感じる	
感覚	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	
	26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
	27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
	28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
	29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
	30) 前庭覚の特有の感覚がある	

氷山モデルシート

ワークシート②



田中さんの行動の背景となる特性に対応した支援のアイデアを選びます。

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 』			
	背景となる特性	支援のアイデア	
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い	A) 汲み取ってもらい、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい	
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい	
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い	B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	
		6) 見えなものの理解が難しい	
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい	
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい	
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい	E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたいかわからない	
		12) 誰に伝えていいかわからない	
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい	F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい	
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい	
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える(時間の視点)
		17) なんとなく、たいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする(時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする(方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
24) 少しの違いで大きな不安を感じる			
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある	K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする(場所の視点)
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある	
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある	
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある	
		30) 前庭覚の特有の感覚がある	
		L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する(場所の視点)	

個人ワーク | 支援のアイデアを整理する

→ワークシート④

1. 特性確認シートで「作業中に自傷をする」背景となる特性に対応する支援のアイデアをピックアップします。
2. 冰山モデルシートの支援のアイデアの欄に転記します。 →ワークシート②

グループワーク | 支援のアイデアを整理する

1. 「作業中に自傷をする」に関係する特性に対応する支援のアイデアをグループで共有します
※氷山モデルシート（グループ用）に記入

さらに「強み（ストレングス）確認シート」 を使って具体化します

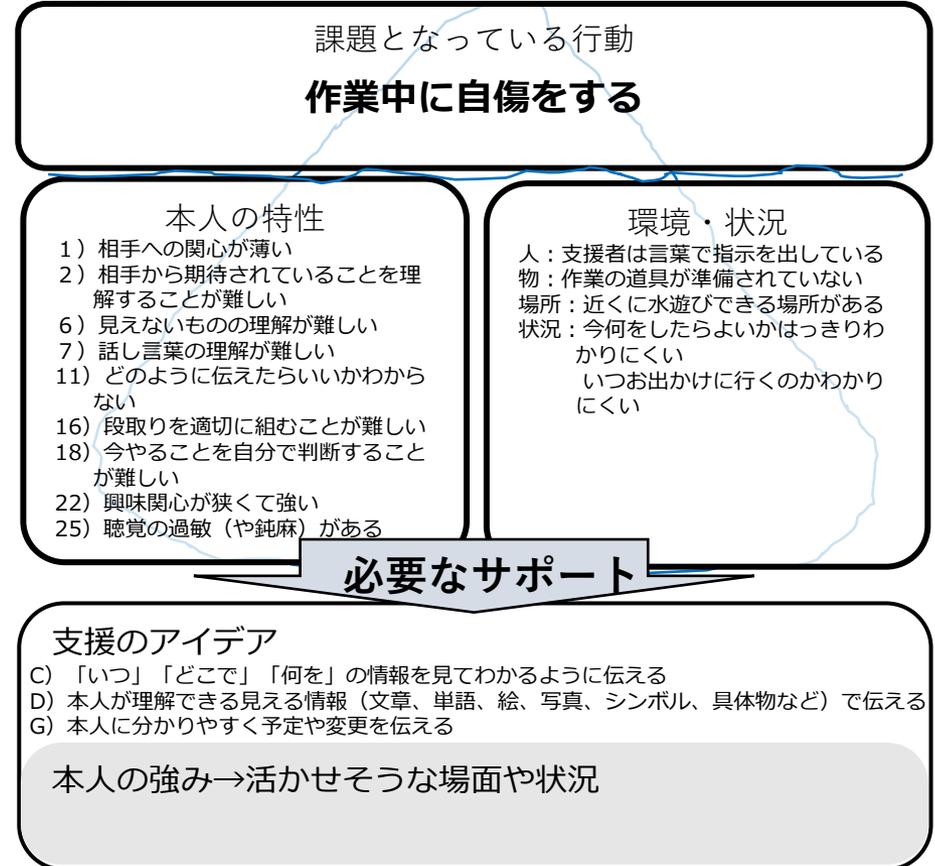
ワークシート⑥

強み（ストレングス）確認シート

本人の強み（ストレングス）	活かせる場面や状況
<p>わかること・できること</p> <p>例) なくはったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など</p>	
<p>好きなこと（遊び方、過ごし方、キャラクターなど） やりたがること</p> <p>例) ハンモックで揺れる ○○のキャラクター ヒットはまる 色を合わせる</p>	
<p>得意なこと（これには助けられているなど） 見方を変えれば得意かもしれないこと</p> <p>例) 目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる</p>	
<p>その他</p>	

ワークシート②

氷山モデルシート



「強み」(ストレングス)とは

支援をするときに活かせそうな、本人の能力や環境

※ストレングスモデル

その人が元来持っている強さに注目し、それを引き出して活用していこうとする考え方

障害特性も「リフレーミング」により強みになる場合もある。

(参考) リフレーミング

ある枠組み（フレーム）で捉えられている物事を、
枠組みをはずして違う枠組みで見ること

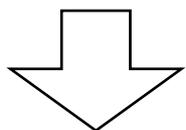
今までの考えとは「解釈を変える・視点を変える」
「違った角度からアプローチする」ことにより、誰もが潜在的に持っている能力を使って、意図的に自分や相手の生き方を健全なものにし、ポジティブなものにしていく。

リフレーミングの例

「水をどのくらい飲めましたか？」

【ポジティブ】

半分も飲めている

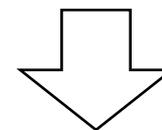


「あと少しで飲み終わりますね。」
「頑張ってますね。」



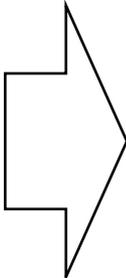
【ネガティブ】

半分しか飲めていない



「全然飲めていないですね。」
「早く飲んでくださいよ。」

リフレーミングの例

- 動作が遅い
 - 大雑把
 - 頑固、融通がきかない
 - 気が散りやすい
 - 自己中心的
 - 心配性
 - 自分勝手
 - 作業が雑
 - 集団で行動できない
 - 飽きっぽい
 - しつこい
 - 人に流されやすい
- 
- 一つ一つ丁寧にできる
 - 小さいことが気にならない
 - 強い意志を持っている
 - 好奇心旺盛
 - 自分のことを大切にできる
 - 先のことを予測できる
 - 主体的に行動できる
 - 大まかなことはできる
 - 1人で行動できる
 - 気持ちの切り替えが早い
 - ねばり強い
 - 状況把握ができています

リフレーミングの考え方の大切さ

リフレーミングは、問題、課題への対応方法を考えるときに用いることが多い。

問題・課題解決において

- ① 「できない理由」ではなく「どうやったらできるか」を考えるようになる
- ② その人自身を変えようとするのではなく、環境、支援方法を変えるようになる
- ③ ピンチをチャンスに変える思考習慣が身につく

本人の強み（ストレングス）と活かせそうな場面や状況を書き出します

強み（ストレングス）確認シート

本人の強み（ストレングス）	活かせそうな場面や状況
<p>わかること・できること 例) なくなったら終わり、ペットボトルのふたを開ける ハサミを使うのが上手 など</p>	
<p>好きなこと（遊び方、過ごし方、キャラクターなど） やりたがること 例) ハンモックで揺れる ○○のキャラクター ビックリはまる 色を合わせる</p>	
<p>得意なこと（これには助けられているなど）見方を変えれば得意かもしれないこと 例) 目的がわかれば待つことができる 変更は苦手だがいつもと同じことはできる</p>	
<p>その他</p>	

個人ワーク | 強み（ストレングス）を整理する

1. 強み（ストレングス）確認シートで、本人の強み（ストレングス）と活かせそうな場面や状況を書き出します。→ワークシート⑥
2. 冰山モデルシートの本人の強み→活かせそうな場面や状況の欄に転記します。→ワークシート②

グループワーク | 強み（ストレングス）を整理する

1. 本人の強み（ストレングス）と活かせそうな場面や状況をグループで共有します

※氷山モデルシート（グループ用）に記入

記入の仕方

本人の強み（ストレングス） →活かせそうな場面や状況

発 表

1. 記入した氷山モデルの内容を発表します

まとめの講義

1. 強度行動障害が現れている方への支援は、アセスメントに基づいた本人の障害特性を理解して、根拠のある支援を組み立てることが基本です。
2. アセスメントは、本人の障害特性だけでなく、環境や状況も含めて行うことが重要です。

⑤ 【講義】 強度行動障害がある者へのチーム支援②

191～246

強度行動障害がある者へのチーム支援

NPO法人 よつ葉福祉会：てんとう虫



所長：榎本 恵理

この時間で学ぶこと

- ・ 強度行動障害のある人を支えていくことは、一つの事業所ではできません。
- ・ また、限られた職員、限られた事業所だけで強度行動障害のある人を抱え込むと、危機や虐待のリスクは高まります。
- ・ 強度行動障害のある人たちを支えていくためには、福祉、医療、教育、家庭、専門機関など、様々な関係者が連携していくことが大切です。

和歌山県での取り組み (大久保先生からの学び)

大久保 賢一先生

- 畿央大学教育学部現代教育学科 教授
- 畿央大学院教育学研究科教育実践学専攻 教授
- 一般社団法人日本ポジティブ行動支援
ネットワーク 代表理事

和歌山県強度行動障害
支援者養成研修（連続研修）
について

本研修
(連続研修)
合計5日間

強度行動障害支援者養成研修
(実践研修)

強度行動障害支援者養成研修
(基礎研修)

連続研修の目的

- 行動障害に対する支援技術を持つ専門家の養成
- 行動障害のある利用者を担当する支援者の専門性とメンタルヘルスの向上を目指す
- 「対応方法を学ぶ」のではなく、「対応方法の考え出し方を学ぶ」
- チーム内、施設内で実践を共有し、普及させる

連続研修の進め方

- 実際の事例検討を行いながら進める
- 研修の中で実際に支援計画を立てる
- 現場に持ち帰って実践する
- 実践の成果を記録に取る
- その記録を基に、次の研修会でさらに検討を重ねる
- 理論を学んでいただき、実践を体験していただく

研修の全体スケジュール

	開催日	時間	内容
第1回目	令和6年8月15日(木)	10:00~17:00	【講義】 講師：(NPO)よつ葉福祉会 榎本 恵理氏
第2回目	令和6年9月17日(火)	13:15~16:45	【演習】
第3回目	令和6年10月16日(水)	13:15~16:45	【演習】
第4回目	令和6年11月14日(木)	13:15~16:45	【演習】
第5回目	令和6年12月12日(木)	13:15~16:45	【まとめ、報告会】

- 目標設定
- 支援計画の立案
- 行動記録の開始



支援計画の実行、行動の記録

- 評価と修正



支援計画の実行、行動の記録

- 評価と修正



支援計画の実行、行動の記録

- 評価と修正



支援計画の実行、行動の記録

- 評価と修正

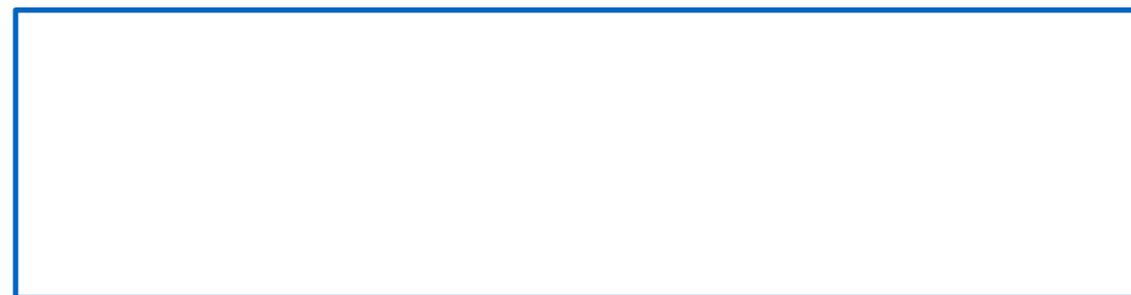
報告会

- ポジティブ行動支援

「ポジティブ」な支援 について検討しよう



罰的を与えるような対応に頼らない



行動障害が必ずしも起きてから事後的に対応するという
事では無く、事前にできることはやっておく

「ポジティブ行動支援」とは？

- “Positive” な行動を・・・
- “Positive” な方法（肯定的・積極的） で・・・

促して本人と周囲の人々の生活の質・人生の質（QOL）を向上させる

* 応用行動分析学（ABA）に基づくもの

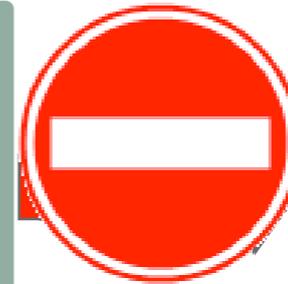
問題行動に対する対応の基本

問題行動のきっかけ

難しい課題



問題行動
教員が問題行動を破る

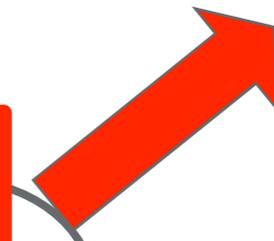


問題行動の結果

難しい課題を
やらずにすむ



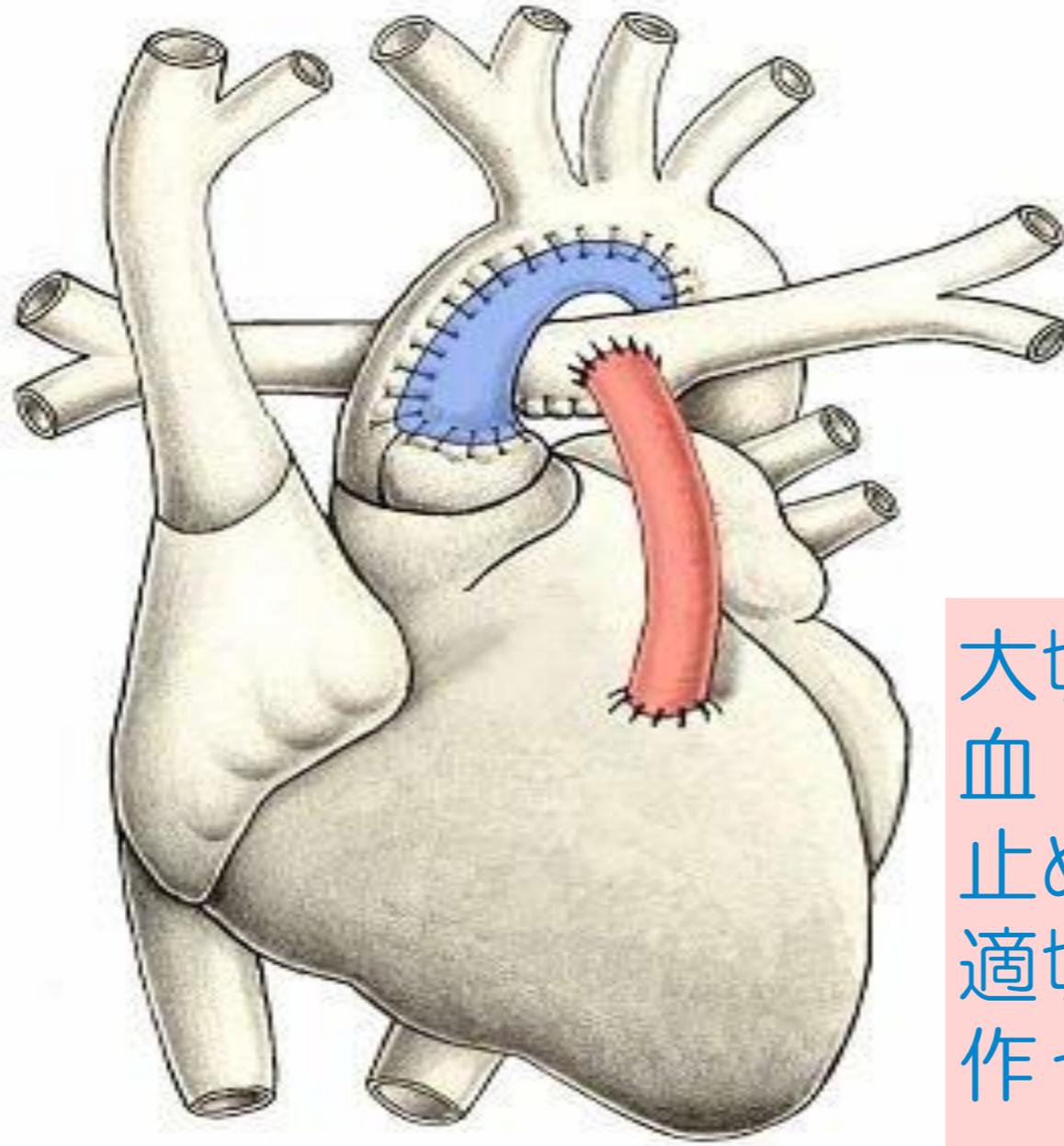
「教えてください」
「休憩させてください」



課題の難度や
量を調整する

問題行動をブロック適切な
要求には対応する

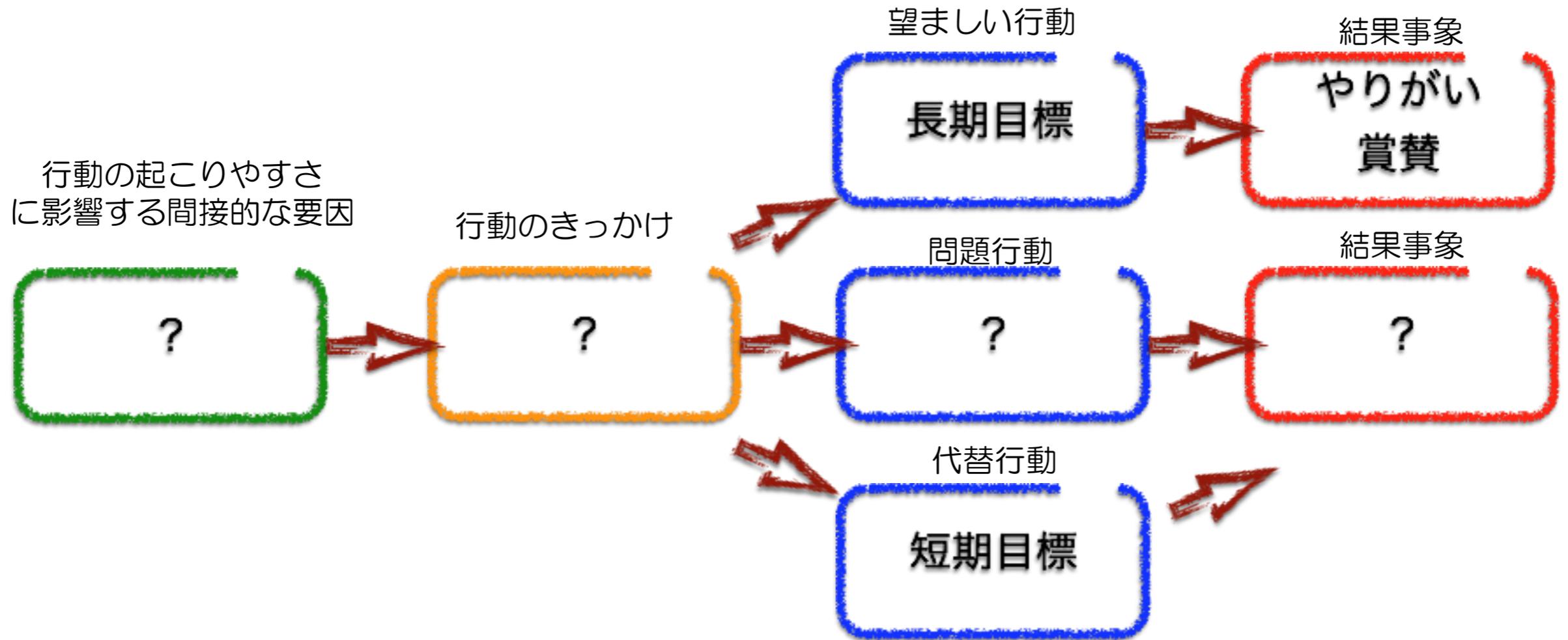
問題行動への対応は 「バイパス手術」のようなもの



問題行動には
その人なりの理由や目的、メッ
セージが込められています

大切なのは
血（その人のメッセージ）を
止めることではなく
適切な道筋を
作ってあげること

行動支援計画（ストラテジーシート）の全体像



<p>間接的な要因に関する方略</p>	<p>行動のきっかけに関する方略</p>	<p>行動を指導するための方略</p>	<p>結果事象に関する方略</p>
---------------------	----------------------	---------------------	-------------------

2種類の記録用紙

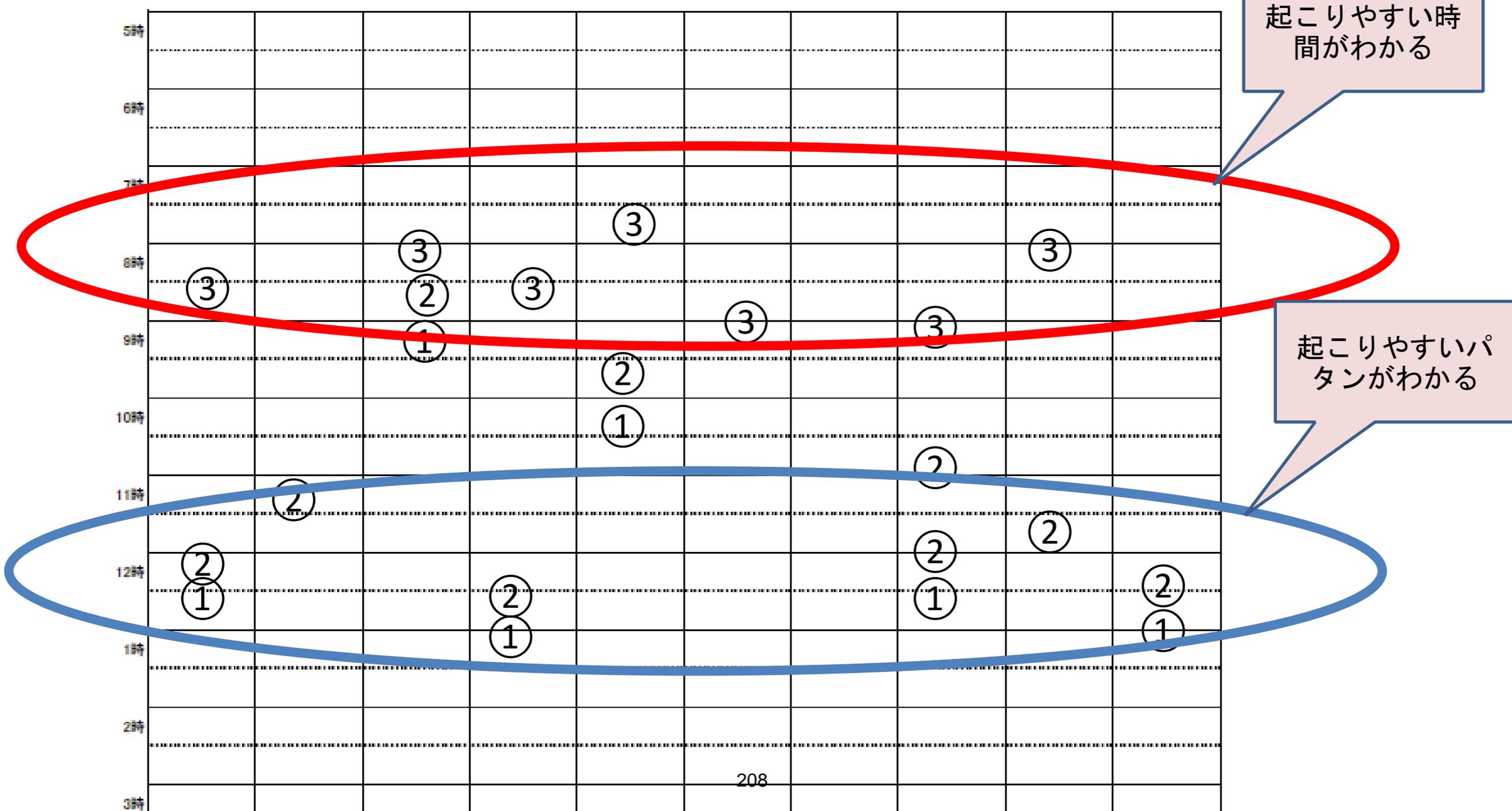
- スキャタープロット
 - 行動の頻度を記録するためのもの
- 行動・状況分析シート
 - 行動の理由を推定するためのもの
 - 基本的に使うのは最初だけです

スキヤター・プロット

- スキヤター (Scatter : 散らばる)
- プロット (Plot : 図を書く)
- 時間表の中に印を記入して、行動が起きた時間帯やその回数、程度などを記録する方法

スキッタープロットに整理する

<観察する行動>
①他の利用者を叩く ②徘徊 ③便塗り



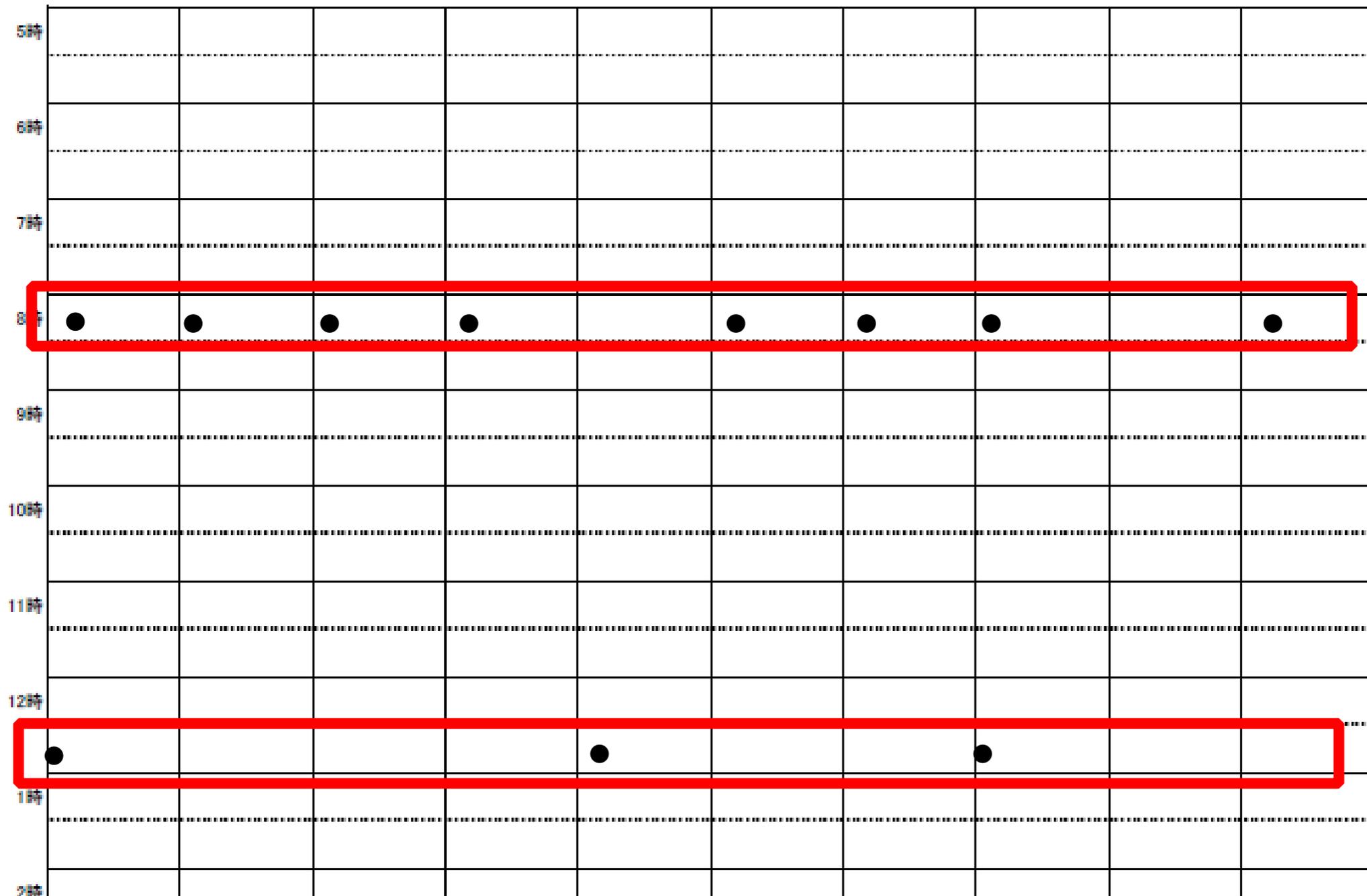
起こりやすい時間がわかる

起こりやすいパターンがわかる

記録の例

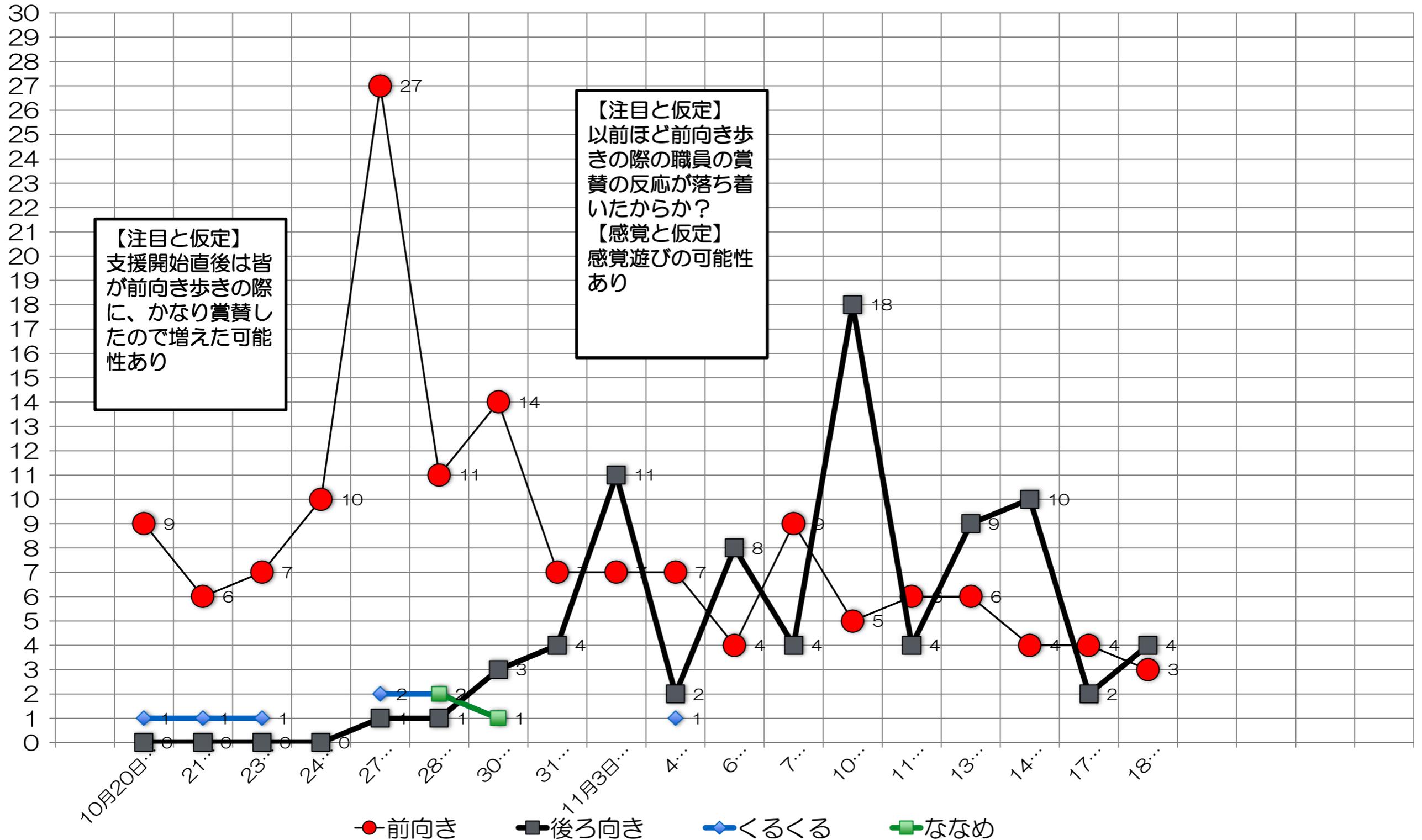
<観察する行動>

③ 便塗り(産物記録) 観察時間一日2回 8時30分, 12時



スキャッタープロットをグラフ化する

移動時の動き



「行動・状況」分析シート

- ・ ABC分析を使って、行動の理由を推定するもの

「行動・状況」分析シート

望ましい行動 (適切な作業への取り組み)

問題行動 (自傷行動
他傷行動)

観察者: _____

日付	行動の前の状況(A)	行動(B)	行動の後の状況(C)
() 月 () 日	作業に取り組むよう指示を行う	予定していた分に自発的に取り組める	おやつタイム
	おやつタイムが終わり、作業を再開するよう促す	首を横に振り拒否	もう一度促す
	”	自傷が始まる	難しいと判断し、作業はやめてのんびり過ごしてもらおう
	”	行動がおさまる	

研修の全体スケジュール

	開催日	時間	内容
第1回目	令和6年8月15日(木)	10:00~17:00	【講義】 講師：(NPO)よつ葉福祉会 榎本 恵理氏
第2回目	令和6年9月17日(火)	13:15~16:45	【演習】
第3回目	令和6年10月16日(水)	13:15~16:45	【演習】
第4回目	令和6年11月14日(木)	13:15~16:45	【演習】
第5回目	令和6年12月12日(木)	13:15~16:45	【まとめ、報告会】

- 目標設定
- 支援計画の立案
- 行動記録の開始



支援計画の実行、行動の記録

- 評価と修正



支援計画の実行、行動の記録

- 評価と修正



支援計画の実行、行動の記録

- 評価と修正



支援計画の実行、行動の記録

- 評価と修正

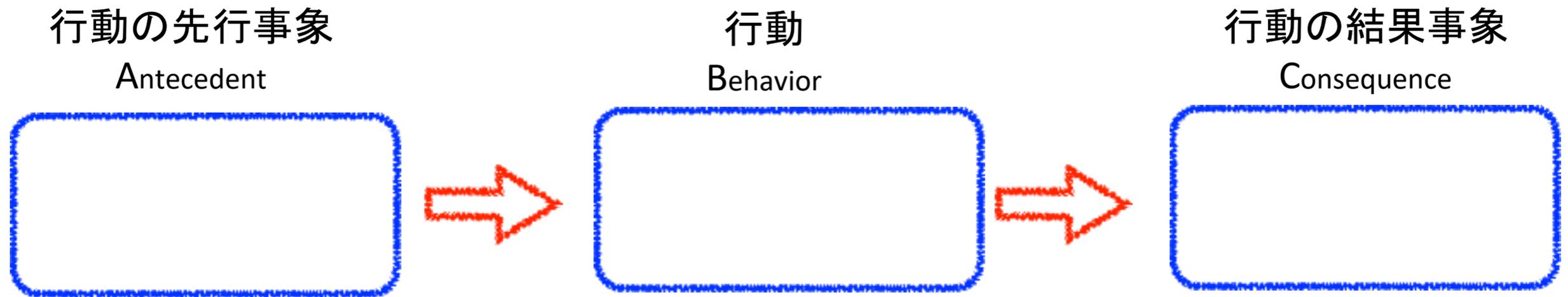
報告会

ポイント①

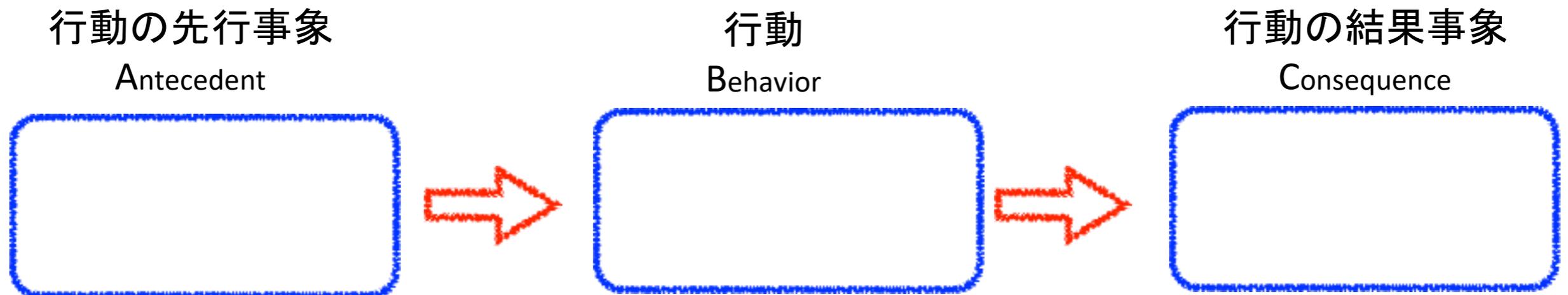
- 行動を理解するための枠組み

ABC分析を試してみよう。

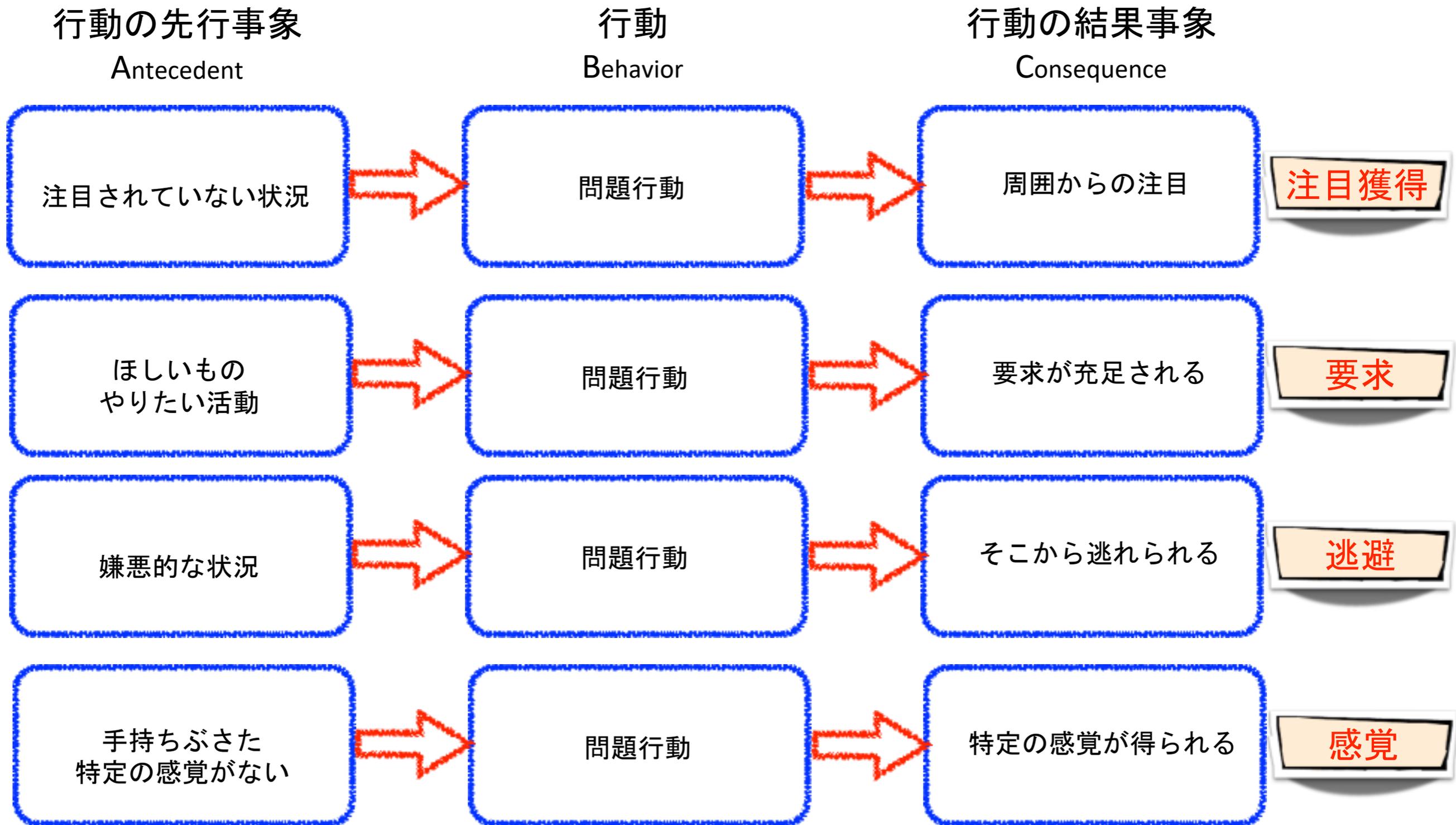
①ある作業の場面でのAさん。わからないことがあるが、近くに支援員がいない。大きな声を出すと、どうしたの？と支援員がきてくれた。



②ある作業の場面でのAさん。作業が難しくてやりたくない。作業の材料を投げると、支援員がきて、休憩室に行くことができ、作業をしないですんだ。



問題行動には「理由」(機能)がある



行動には理由（機能）がある

- 人は行動によって何かを得ている、あるいは何かから逃れることに成功している
- 「行動障害」や「問題行動」と思うのは、我々の立場からの見方に過ぎない
- 利用者にとっては「必要な行動」であるかもしれない
- 「行動の目的」それ自体には何の問題もない
- 「理由に応じた対応」が必要

問題行動を強化し、維持させている結果事象

- 問題行動が起こり続けているということは…
- 利用者さんはその問題行動によって
 - 何かを得ている（正の強化）
 - 何かから逃れている（負の強化）

注目獲得

要求

逃避

感覚

問題となる行動によって・・・

あるものを得ている
(正の強化)

あるものから逃れている
(負の強化)

他者からの注目
「もっと私のことを見て」

ものや活動
「〇〇がほしい」
「〇〇を試してみたい」

感覚
「〇〇が心地いい」

他者からの注目
「私にかまわないでほしい」

ものや活動
「〇〇をださないで」
「〇〇をしたくない」

感覚
「〇〇が嫌だ」
「〇〇を忘れたい」

・ 行動が起こりやすくなる時

- 1. 行動→好ましい刺激が出てくる→行動の頻度が増加する。
- 2. 行動→嫌な刺激がなくなる →行動の頻度が増加する。

※正の→出てくる 負の→なくなる 強化→行動が増える 弱化→行動が減る

・ 行動が起こりにくくなる時

- 3. 行動→嫌な刺激が出てくる →行動の頻度が減る。 正の罰
- 4. 行動→好ましい刺激がなくなる→行動の頻度が減る。 負の罰
- 5. 強化されていた行動→何も起こらない→一旦、行動がエスカレート
→行動が減少。

※着眼点：行動した後→本人にとってプラスに作用する事柄なら、行動は増える。

本人にとってマイナスに作用する事柄なら、行動は減る。

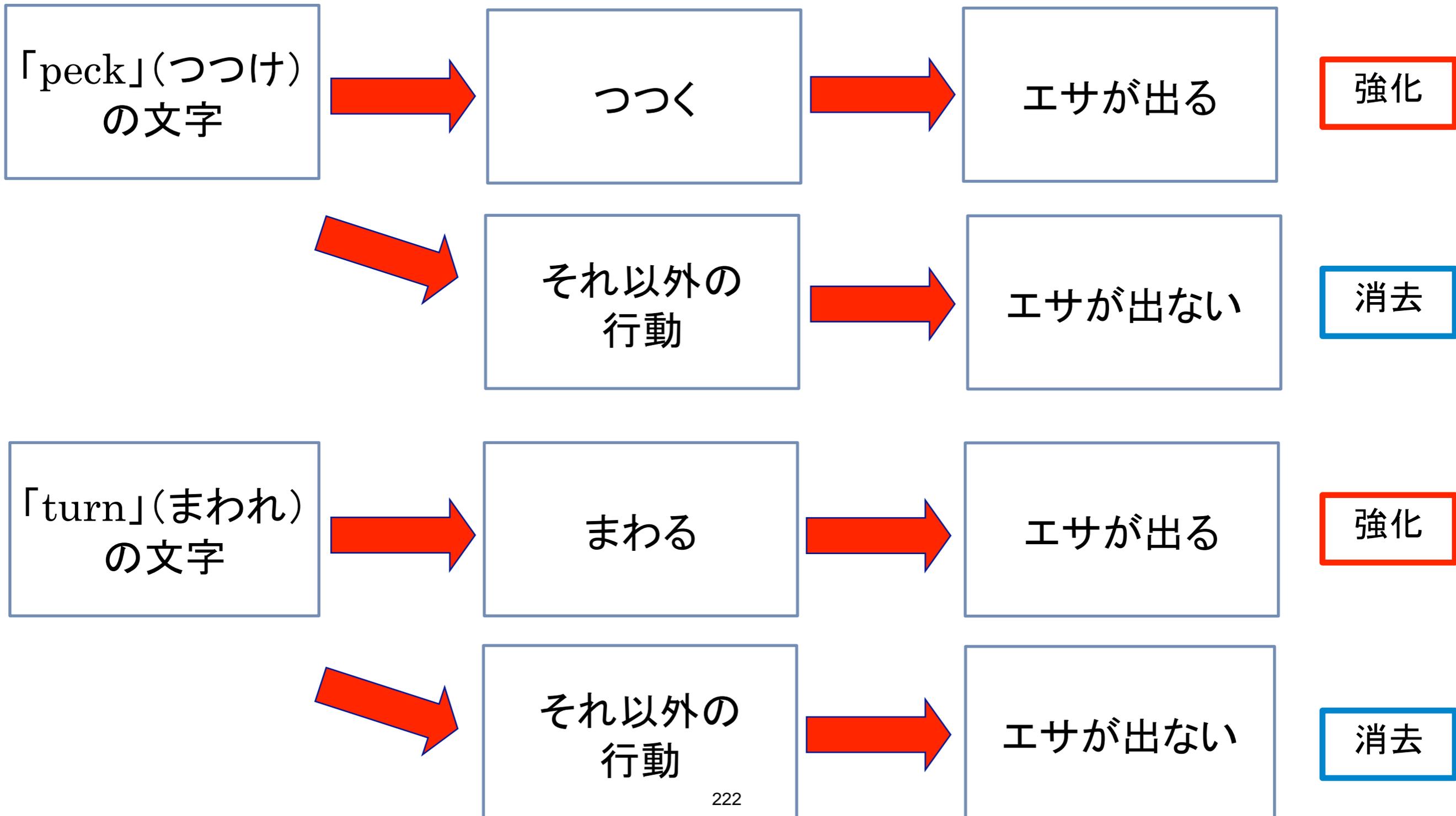


ハトも「行動のABC」を学習する！

行動の先行事象
(Antecedent)

行動
(Behavior)

行動の結果事象
(Consequence)





「行動のABC」の例

行動の先行事象
(Antecedent)

行動
(Behavior)

行動の結果事象
(Consequence)

嫌な仕事・課題

嫌々やる

誰も誉めてくれない
次の課題が出てくる

消去

かんしゃく
仮病

「じゃあやら
なくてもいいよ」

強化

• 課題や活動の内容や量が本人の実態に合っていない

• かんしゃくや仮病の原因は、本人の障害？性格？生育歴？

• それらは影響しているかもしれないが、間接的要因に過ぎない

• せっかく嫌々ながらやっているのに本人なりのメリットがない

• かんしゃくや仮病の方が相対的にメリットが大きい

ポイント②

- 知的障害や自閉症に対する基本的な理解

知的障害や自閉症のある方によく見られる困難性の例 ～困難性を十分に理解しているか？～



- 言ってわからなければ、伝え方を変えなければならない



- 注意が逸れやすかったり、没頭しすぎてしまう



- 我々とは様々なことに対する感じ方が違うので、意外なことが辛かったりするのかも…



- 実は予測性が乏しいことに対する不安なのかも…

注意 (Attention)

- 集中 (Concentrate) と解放 (Release)
- 「集中すること」とは「他のことを無視すること」
- 自閉症の特性のある方は、注意の範囲が狭い、細部に集中する傾向がある

『心の理論』の問題

- ・ 他者の表情や感情、心的状態を推測することが苦手
 - 共感・同感ができづらい
 - 他の人の立場に立って考えられない

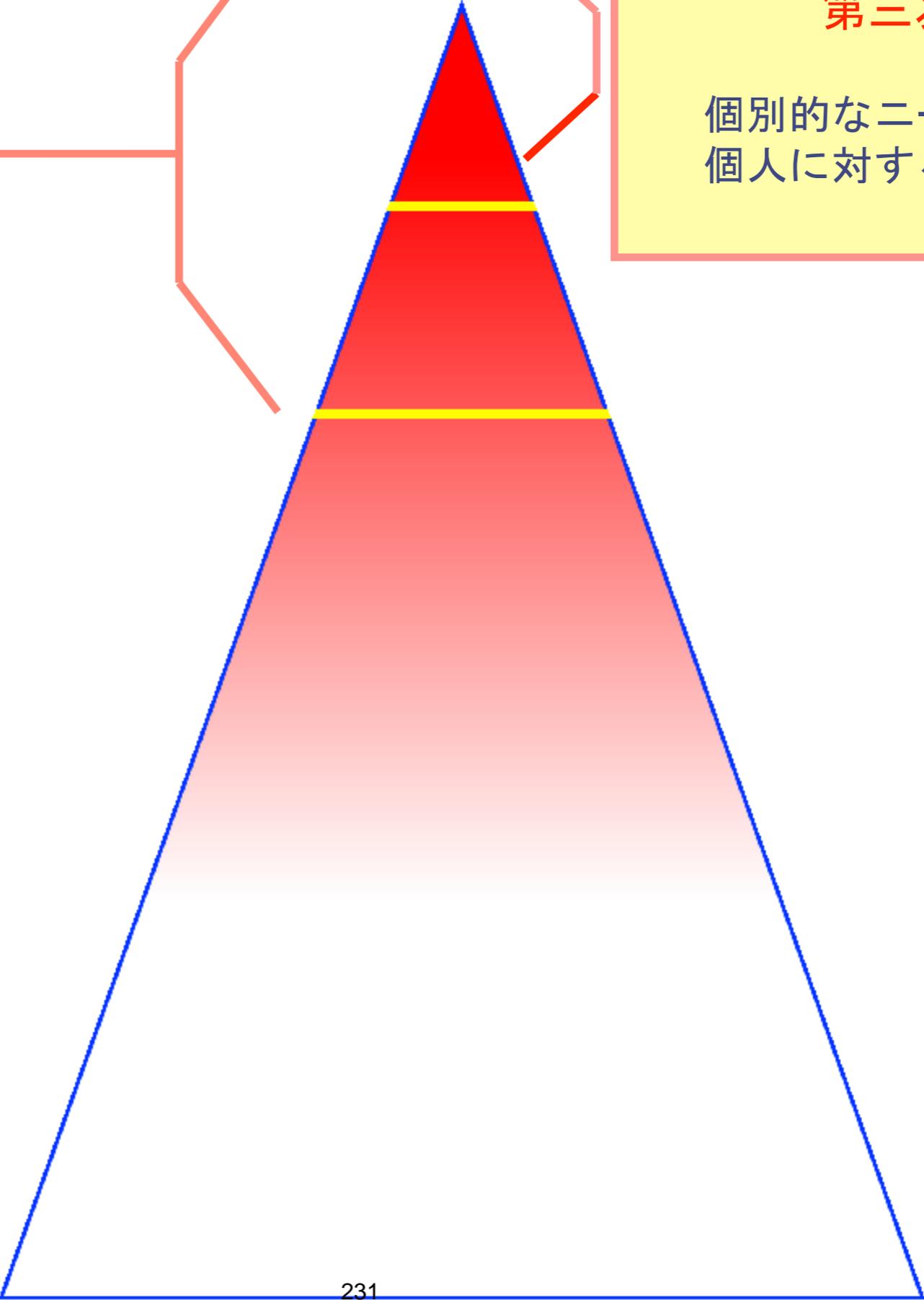


ポイント③

- 適応を支援するための環境設定

第二次支援
特定のニーズのある
グループに特化した
アプローチ

第一次支援
全ての利用者に対する
ユニバーサルな
アプローチ



第三次介入
個別的なニーズを抱える
個人に対するアプローチ

ユニバーサルな一次的支援

- 
- 
- 
- 

トークン・エコノミー

- トークン＝お金の代わり
- 標的行動を決めて…
- ポイントを得るためのルールを決めて…
- バックアップ強化子と交換する
- 行動契約

トークンの利点

- トークンは飽きにくいので、頻繁に提示することができる
- 支援者の『ほめ忘れ』を防ぐ
- そのまま行動の記録になる
- 複数の関係者が関わる際の連携ツールになる

選択肢を提示する

-
-
-
-

ポイント④

- 新しいスキルを教えるための指導技術

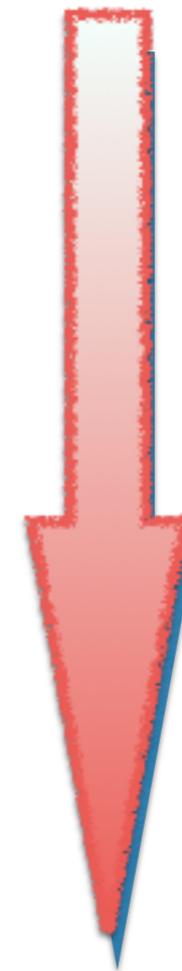
行動支援の本質は「教えること」

- 利用者が適切に行動できないのは、適切な行動の仕方を知らないためであるかもしれない
- 適応的な行動が増えれば、相対的に問題行動は減る
- QOL向上のために必要な行動を教えて増やす

援助やヒント（プロンプト）の種類

援助の程度が小さい

- 1. 言葉かけ
 - 間接的な言葉かけ
 - 直接的な言葉かけ
- 2. 指さしや視覚的の手がかり
- 3. モデルを示す
- 4. 身体介助



援助の程度が大きい

援助やヒントを抜いていくテクニック (フェイディング)

- 援助の程度を 小→大
- 援助の程度を 大→小

行動をつなぎ合わせる方法 (チェイニング)

- ・ 前から順番につなげる

- ・ ①→①②→①②③→①②③④→…

- ・ 後ろから順番につなげる

- ・ ⑤→④⑤→③④⑤→②③④⑤→…

- ・ 一通り全部やってみて、それを繰り返し練習する

- ・ ①②③④⑤→①②③④⑤→①②③④⑤

スモールステップ

- 目標をスモールステップで上げる（シェイピング）
- 複雑な行動を細分化して教える

（課題分析とチェイニング）

ステップの考え方と指導の基本

- 各ステップは、誰が見ても同じ評価ができるような具体的な「行動」に設定する
 - 良くない例：～がわかる×～を感じる×～と思う×
- ステップの細かさは対象者の実態に合わせる
- できるだけ「お楽しみ」は最後のステップに
- 記録を取って、つまずいているところを把握する
- 援助とヒントを適切に使う

実践例（電車の乗り降り）

		1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
1	改札口を通過する	×	×	×	△	○
2	ホームに移動する	×	○	○	○	○
3	電車に乗る	△	○	○	○	○
4	電車の中で適切に過ごす	△	○	○	○	○
5	「○○駅」で降りる	×	×	×	×	×
6	改札口を通過する	×	×	×	△	○

○→自分でできた

△→言葉がけや指さしでできた

×→身体的な誘導が必要だった

「必要なこと」は何か？

- ・ 行動障害に関わる虐待を無くしていくための、禁止や拘束、罰的な手続き以外の具体的な方法論
 - ・ 行動を理解するための枠組み
 - ・ 行動理解に基づき支援計画を立案するための様式・プロセス
 - ・ 具体的な支援方法・指導方法
- ・ 支援を継続的に実施するための、組織的なバックアップ

支援の最終ゴールは何か？

- 問題行動を減らすだけでいいのでしょうか？
 - それでいいのなら、極端な話、過度な投薬や隔離に頼ってしまう対応に陥ってしまう…
 - 抑制的で、あらゆる機会を奪ってしまう対応になりがち
 - 利用者さんが「何もしないこと」が目標になってしまう
- そうではなく、「生活の質」、「人生の質」（QOL）を高めることが支援の最終ゴール

行動のコントロールが最終目標ではない！！

大事なものは・・・

☆ 本人の生活の質の向上

☆ 本人の願いがかない、

豊かに過ごすこと

☆ 地域の中で安心して幸せに

生活すること

ご清聴ありがとうございました。